旅のカレンダー写真帳

2006～2022年

金子　純一

徳塔出版

旅のカレンダー写真帳

2006～2022年

金子　純一

徳塔出版

前書き

石の上にも三年というが、カレンダーを作り始めて早１６年が経過した。その間に多少なりとも進化した部分もあるだろうが、古い画像には未だに愛着を感じるものもある。そんなことで、これまで使用した画像を、カレンダーと同じ順で集めてみた。ただし

コロナ禍故に海外渡航ができないまま作成した、２０２１年のカレンダー画像は過去に利用したものの再登場だったため割愛した。

カレンダーの末尾に付けた短文も画像ごとに配してみた。一部は加筆修正などを施してある。

この写真帳も一つの終活（Ending Action）だと考えている。

目　次

2006年版　：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：　1
シチリア　カルタジローネ1　　カルタジローネ2　　アグリジェント　　瀬戸内海
来島海峡　　沖縄　多良間島　　隠岐　島後島

2007年版　：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：　5
ポルトガル　ナザレ　　長野　木崎湖　　スコットランド　レバーバラ　　アイルランド
ドーリン　　北海道　クッチャロ湖　　ポルトガル　ラーゴス　　ポルトガル　オビドス

2008年版　：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：　9
イタリア　ラヴェンナ　　山形　山寺の五大堂　　イタリア　フェッラーラ
イタリア　ヴェローナ　　イタリア　ウルビーノ　　イタリア　ヴェローナ　　群馬　浅間山

2009年版　：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：１３
エーゲ海　イオス島　群馬　浅間山　スコットランド　バラ島　イタリア　チンクエテッレ
シチリア　メッシーナ　　群馬　草津白根　　ポルトガル　フィゲイラ・ダ・フォス

2010年版　クロアチア紀行　　：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：１７
コルチュラ島　　プリトヴィッツェ　　トロギール　　プーラ　　ロヴィニ
コルチュラ　　シベニック

20011年版　シチリア紀行　：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：２１
トラーパニ　　シラクーサ　　セリヌンテ　　トラーパニ　　チェファルー
セリヌンテ　　ラグーサ

2012年版　ブルガリア紀行　：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：２５
ソフィア　　シプカ峠　　ヴェリコ・タルノヴォ　　パチコヴォ　　コプリフシティツァ
リラ修道院　　トリャヴナ

2013年版　ハンガリー・ルーマニア紀行　：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：２９
ハンガリー　ブダペスト　ルーマニア　ブラショフ　　ハンガリー　ペーチ大聖堂
ルーマニア　シギショアラ　ルーマニア　シビウ　　ペーチ　　ブダペスト

2014年版　南イタリア紀行　：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：３３
パレルモ　レッチェ　チェファルー　スティロ　トラーニ　ナポリ
マテーラ

2015年版　イタリア中部紀行　：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：３７
アッシジ　ローマ　フィレンツェ　モンタルチーノ　シエナ
サン・ジミニャーノ　アッシジ

2016年版　バルト三国紀行：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：　４１
リトアニア・トラカイ城　エストニア・タリンの中世料理レストラン　エストニア・タムラ湖
エストニア・タリン大聖堂　エストニア・タルトゥのパブ　エストニア・ヴォル村　リトアニア・ヴィリニュスの聖霊教会　リトアニア・トラカイ城　リトアニア・ヴィリニュスの聖カタリナ教会
ラトヴィア・リガのピルセータス運河　リトアニア・カウナスのタウンホール　リトアニア・トラカイのガルヴェ湖　リトアニア・・ヴィリュニス大聖堂

2017年版　イタリア紀行：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：　４８
ミラノ大聖堂　ベローナ・カステルヴェッキオ橋　ベローナ・サンゼーノマッジョーレ教会　パドヴァ・サンタントニオ聖堂　パドヴァの運河　パドヴァ・ローマ通り
ラヴェンナ・ガッラ・プラチディア霊廟　フェッラーラ・エステ城からの景観
ラヴェンナ・アリアーニ洗礼堂　モデナ・ドゥオーモ　パルマ大聖堂のアーチ
ジェノバ・フラーテ・オリヴェリオ通り　ジェノヴァ・ジェズ教会

2018年版　イタリア紀行：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：　５５
オルヴィエート・大聖堂のアラバスター窓　フィレンツェ・サンティッシマ・アンヌンツィアータ教会　フィレンツェ・サン ミニアート アル モンテ教会　オルヴィエートのドゥオモ通り　オルヴィエート・聖ステファノ・エ・アナ教会　イスキア島のヴィットリーア・コロンナ通　スポレート大聖堂　プロチーダ島の漁村マリーナ・コッリチェッラ
オリヴィエートのドゥオモ広場にある時計塔　タルクィニアの旧城壁門　タルクィニア・サン・サルバトーレ教会　オルヴィエートの里山風景　スポレートのジュゼッペ・ガリバルディ通り

2019年版　イタリア紀行：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：　６２
ラヴェンナの大食堂マリアーニ・ライフスタイル（食堂名称）　ラヴェンナの街頭花屋アレッツォ大聖堂内の「慰めの聖母礼拝堂」　アラゴン城から見下ろすイスキア島東海岸
アレッツォのロッジア・ヴァザーリ　オルヴィエトの大聖堂ファサード
アラゴン城よりイスキア島を見下ろす　ルッカのピサ・ルッカ・ロマネスク様式が見事なサン・ミケーレ・イン・フォロ教会　サレルノのルンゴマーレ（海岸通り）
アレッツォのメジチ要塞付近から眺める里山風景　ルッカの老舗食堂ブーカ・ディ・サンタントニオ　ルッカの時計塔（Torre delle Ore）から見下ろす市街

2020年版　イタリア紀行：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：　６８
レッチェのジェズ（イエズス会）教会内陣　オルヴィエート大聖堂のサン・ブリツィオ礼拝堂
テルモリのBorgo（村）　駅付近から見上げるトレヴィ(Trevi)の街　コルトーナから見下ろすトスカーナの田園風景　オルヴィエート大聖堂ファサードの右側入口脇柱に浮彫された最後の審判　レッチェのサンタ・クローチェ（聖十字ルッカ城外の紅葉架）教会ファサード　オルヴィエートのマゴニ通り　ルッカ・サンミケーレ広場での大道芸
コルトーナの魅力的な小路　ルッカ城外の紅葉　ルッカ城壁上のプロムナード
ミラノのドゥオーモ・ファサード　ミラノのドゥオーモの明かり取り窓

2021年版　再利用画像のため割愛した

2022年版　イタリア紀行：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：　７６
パルマのサン・ジョヴァンニ・エヴァンジェリスタ教会礼拝堂　オルヴィエートのマゴニ小路　アレッツォ、ヴァザーリのロッジア（開廊）　ラ・スペツィア、サン・ジョルジョの古城から見下ろすラ・スペツィア湾　ジェノヴァ下町のロッジア　ルッカのサン・ミケーレ・イン・フォロ教会　ラ・スペツィア港　ジェノヴァのドゥカーレ宮ファサード上部
コルトーナから見下ろすトスカーナ平野とサンタ・マリア・デッレ・グラツィエアル・カルシナイオ教会　ラ・スペツィアの大衆食堂オステリアオール インフェルノ　ルッカの城壁上プロムナード　ミラノ大聖堂と巨大クリスマスツリー　パルマのサン・ジョヴァンニ・エヴァンジェリスタ教会内陣　ルッカのアンフィテアトロ広場

2006年版

2005年末にカレンダー製作を開始した。友人が野鳥の画像を素材としてカレンダーを作製・配布しているのに触発され旅を素材とすることにした。私は熱心なフォトグラファーではないけれど、やはり作品を見て欲しい気持ちは多少ある。しかし額装などしての進呈は貰った方が迷惑だろうし、個展など開くほどの根性はない。

その点カレンダーならば実用品だから、貰って迷惑することは少ないと思うし、一年経てば処分することに躊躇もないだろう。友人にいろいろ教えて貰いながら第一作が完成した。画像はいずれも2005年に撮影したものだ。

シチリア島内陸部にあるカルタジローネで、三泊し三日目には郊外まで足を延ばす。高台の上にある街を遠望すると、右側は旧市街で左に新市街がバランス良く見えるところがある。20枚ほど撮影し、夕景も期待できそうに思った。

夕方出直して午前中の撮影地点に到着。時々刻々次第に赤味を増し紅色に近づき、やがて彩りを失って行くのを約20枚ほど撮影。左側の高台にサン・フランチェスコ・アッリンマコラータ教会、右側の高台にサン・ジュリアーノ大聖堂。

05/11/07 16:53 100 mm F6.3 1/1250sec ISO400

当てもなく黄昏のカルタジローネを彷徨い高台へ向かう。階段の上から、ほぼ水平に走るマトゥリーチェ通りを西へ向かった。突然視界が開け、シルエットに近くなったサン・ジャコモ・バシリカのキューポラと、刻々と明るさを失ってゆく茜色の残照が目に入った。慌ててカメラを構えて1枚。しかしそこでカメラのメモリーがいっぱいになり予備のメモリーと交換するが、気が急いて手際よく行かない。次の一枚を撮影できたのは4分後のことであった。

05/11/05 17:05 45 mm F5.6 1/200sec ISO400

隠岐で泊まったのは島後（とうご）の宿で隠岐プラザホテル、9階の部屋だった。眼前に拡がる景色が心地よく、朝昼晩と眺めて飽きなかった。 05/09/14 7:18: 14 mm F4 1/2000sec ISO400

しまなみ海道は本州・四国連絡橋の中で、唯一歩いて渡ることができる。大型船舶の運行を考慮し、橋桁は海上50メートル程度に架設され、天候に恵まれれば雄大な眺望を楽しめる。来島海峡大橋は四国側から最初の橋だ。橋の途中から北方を望む。中央にあるのは津島。

05/05/10 10:29 20 mm F8 1/1600sec ISO400

多良間島で泊まった民宿は、強制収容所か良く云っても運動部の合宿所みたいなところで、さっぱりだった。窓には(台風対策なのだろうが)頑丈な菱形金網が張られ、食事も至って粗末だった。しかし海は文句なしに美しい。 05/07/06 17:22 14 mm F7.1 1/2000sec ISO400

タオルミーナの目玉的存在はギリシャ劇場遺跡で、推定ではB.C.3に建造されたものだ。街に隣接していながら、背景にジャルディーニ・ナクソスの海岸線とさらに遠くエトナ山を望む、絶好のロケーションにある。この素晴らしい位置は天与のもののみならず、実現するために少なくとも10万立方メートルの石灰岩を掘削したらしい。動力を用いずにこれだけの作業を成し遂げたのは驚くべきことで、古代タオルミーナの繁栄ぶりが偲ばれる。　05/11/09 11:10 18 mm F6.3 1/2500sec ISO400

シチリア島南東部のノート、モディカ、ラグーサと、小振りでも居心地が良い街を訪ねる。少しずつ異なる雰囲気を楽しみながら移動した。どの街もユネスコ世界遺産に、「ヴァル・ディ・ノート後期バロック様式の町」として登録されている。モディカのコルソ・ウンベルト。　05/11/01 17:20 30 mm F4.5 1/13sec ISO400

2007年版

2006年の海外旅行は、「湾岸流紀行」をテーマとして、ポルトガル、スペイン、アイルランドの大西洋沿岸を北上し、最後はスコットランドの島々を辿る一ヶ月の旅となった。カレンダーの素材もこの旅で撮影したものが多く、五つを採用した。しかし当時は、「私の旅は国内も有り、日数的にはそちらの方が多い。」との考えから、国内素材も二つ使用している。

ポルトガルの大西洋沿岸を北上し漁村ナザレに辿り着いた。浜辺にあるカフェの一角でインターネットに接続できる。メールボックスを開くと受信が数通あり、それに目を通して一通返信を書く。しかし気もそぞろであった。このカフェは西側全部、床から天井までのガラス張りで、砂浜とその向こうに海が見え、今まさに夕日が没せんとしている。これを逃したくない。

ともかく送信を終え、砂浜を横切り渚へ急ぐ。50メートルばかりの距離だけれど、砂に足を取られ歩きにくく、その間にもみるみる太陽は海面へ接近してゆく。カメラアングル云々の贅沢は抜きにして、ともかく歩きながら、カメラの構えも定まらぬまま、ショットを繰り返した。夕日が半分沈んでしまったとき、渚で船のシルエットと重なる位置へ到達できたのは僥倖といえよう。

06/10/30 17:33 45 mm F5.6 1/800sec ISO400

木崎湖温泉には馴染みの宿、「道の家」が有り、塩の道千国街道（松本から糸魚川の約120キロ）を歩く時、たびたびお世話になった。前日は終日霙が降り、歩くには生憎な天気だったが、松本から道の家までの40キロを頑張る。霙は夜に成ると雪に変わり、翌朝は打って変わっての快晴で、朝日に輝く新雪と青空のコントラストが素晴らしかった。 06/02/02 8:09: 21 mm F6.3 1/2500sec ISO400

スコットランド北西部のハリス島でレバーバラのB&Bに泊まった。隣までは何百メートルも離れてポツンと立っていて、家の前は細い舗装道路を越えればすぐ海だ。泊まった部屋は海側に大きな窓が有り、気持ち良い眺めを楽しむことができた。午後3時を廻り、西の空が黄金色に染まり始めた。カメラを持ち表へ出て夕景を撮影する。 06/11/17 15:53 26 mm F7.1 1/320sec ISO400

アイルランド中西部の漁村ドーリンへは、アラン島へ渡るフェリーボートに乗るつもりで訪れた。ところが辿り着いた前日の11月４日土曜日が秋最後の運行で、今日からは冬期運休だった。仕方なく一泊して引き返すことにしたけれど、静かな村をのんびり散歩するのは良かった。古風な石橋を見付け撮影する。　06/11/05 14:36 31 mm　F9 1/100sec ISO400

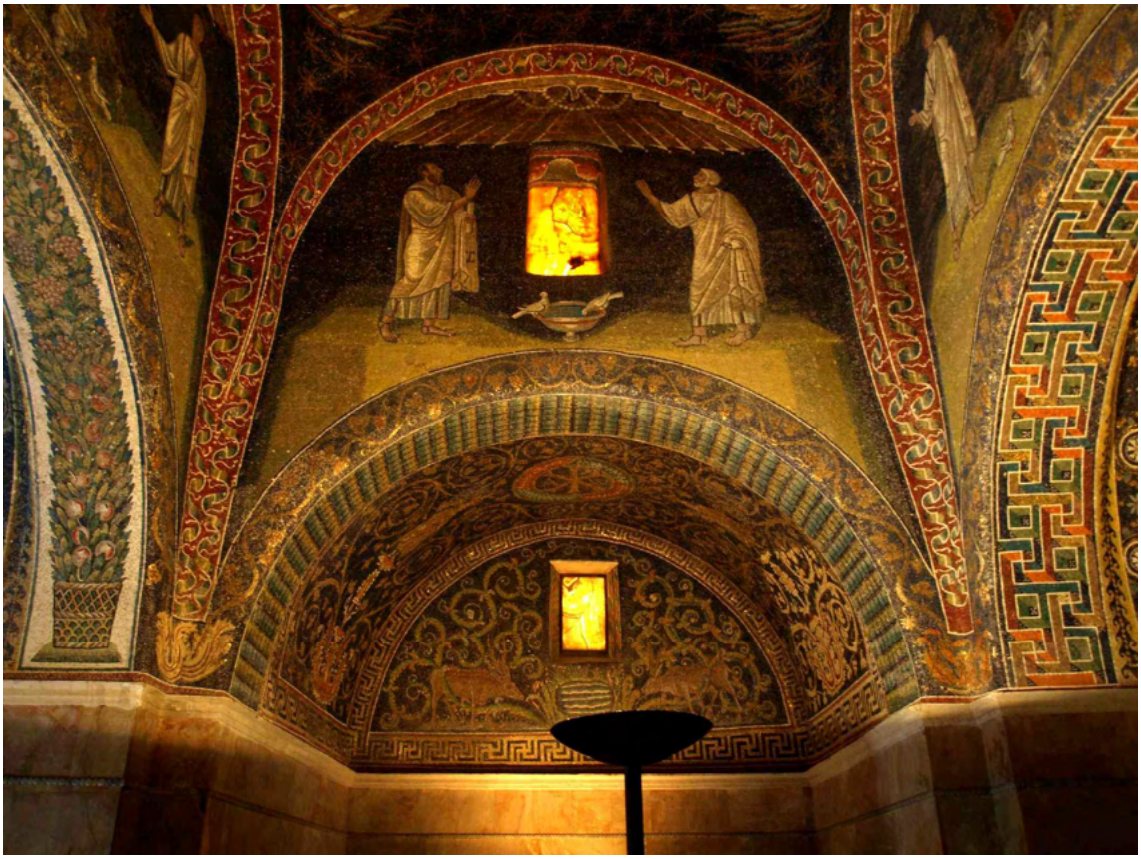
クッチャロ湖は宗谷岬からオホーツク海に沿うような国道238号線を60キロほど東南へ下ったところにある。屈斜路湖と語源は同じらしい。風がなかったこともあるけれど、鏡のような湖面が印象的だった。　06/07/02 8:56: 14 mm　F7.1 1/1600sec ISO400

ポルトガル南部の街ラーゴスは、南方面鉄道の終着点であり、マデイラ諸島行きフェリーが発着する港町でもある。夕方に街へ出るとまもなくポツリポツリと降り出した雨は、あっという間に土砂降りになったが、幸い10分ほどで降り始めと同じく唐突に止んだ。散歩を再開し港まで行き数枚撮影。あとで画像を見ると絵画的というか不思議な色調になっていた。　06/10/25 18:23 45 mm F5.6 1/640sec ISO400

ポルトガルで最も美しい街、あるいは女王の街と呼ばれるオビドスにはポサーダと呼ばれる国営ホテルがある。旧館は古城そのもので客室は5部屋だけなので予約は通常難しい。ところが前日の夕方に電話したところ、キャンセルでもあったのか、塔の中に設けられたスペシャルスイートがとれてしまった。望外の幸運。一般人に妨げられず夜景を堪能した。　06/10/29 18:17 32 mm F4.7 1/1sec ISO100

2008年版

2007年は家庭の事情で海外へでるのが三週間に縮小される。北イタリアを旅したけれど訪れた街(村)も十箇所だったし、撮影枚数も2,500弱と少なかった。そんなことも有り、国内での画像を足してこの年のカレンダーを作製した。



ラヴェンナはモザイクの都といえそうだ。ラヴェンナの初期キリスト教建築群としてユネスコの歴史遺産にも指定されている。中でも見応えがあったのはサン・ヴィターレ聖堂、ガッラ・プラチディア霊廟、サンタポリナーレ・ヌオヴォ聖堂などだった。取り分けプラチディア霊廟は窓に嵌め込まれたアラバスター(方解石)を通して柔らかく外光が差し込み、霊廟らしい落ち着いた雰囲気を醸し出しているのが印象に残った。 07/10/31 11:12 14 mm F4.5 1/2sec ISO400

冬恒例の雪見酒紀行だが、2007年は上野から夜行列車で弘前へ、その後は八戸、角館、山形に泊まり、打ち上げとなる仙台へは仙山線を利用した。芭蕉の句で名高い山寺（立石寺）の麓にある山寺駅で、垣間見える五大堂を撮影するが曇り空が背景で見栄えのしない画像となった。諦めて席へ戻り、暫時して列車が動き出す。ふと見上げればなんと僅かの間に、背景が曇り空から青空へと変化している。慌ててカメラを取り直し撮影した。　07/01/23 8:16: 26 mm　F5.6 1/800sec ISO400

イタリアの大聖堂は通常ドゥオーモと呼ばれるが、フェッラーラのそれはなぜかカッテドラーレ（Cattedrale di San Giorgio）と呼ばれている。12世紀前半の創建で、ファサードは下部がロマネスク、上部は三層でゴシックの開廊（ロッジア）になっている。　07/10/30 11:44 17 mm　F3.8 1/50sec ISO200

ユネスコ歴史遺産にも登録されているヴェローナは日本人観光客も多い。人気スポットはジュリエットの家やアレーナディヴェローナ（ローマ競技場遺跡）だが、そんなところよりエルベ広場の佇まいが好ましかった。前記二箇所は観光客しかいないが、広場では市民の姿ばかりが目に入る。

07/10/28 14:55 30 mm F5.6 1/125sec ISO100

ウルビーノは人口6,000の小さな街だけれど世界歴史遺産でも有り、見どころも多い。しかしそれ以上に観光客が目立たず、歩いて回るのが楽しい居心地の良いところだった。街の中心部から徒歩10分ほどでレジステンツァ公園が有り、ルネッサンス期の宮殿で最も美しいと云われるドゥカーレ宮殿を眺める。

07/11/02 12:39 29 mm F5 1/640sec ISO100

ヴェローナの昼食は、中心部から少し離れ余り観光客の出没しないところにある、トラットリア・アッリーソロで済ませた。帰り道はアディジェ川左岸の遊歩道を辿る。陽射しが有り暖かいのでそよ吹く川風が心地良かった。川越しに見えるのはサンタナスターシア教会。

07/10/27 14:13 25 mm F4.7 1/800sec ISO100

11月になりカレンダー作成を開始するも、気に入った画像が7枚見付からない。たまたま11月下旬に北軽井沢へ行く用事ができ、帰る際に寄り道をして貰い、うっすら冠雪した浅間山北面を撮影した。これも余り良い出来ではなかったが、仕方なく妥協する。07/11/29 12:11 32 mm F5.6 1/640sec ISO100

2009年版

2008年は家の事情により海外へ出ることができなかった。そのアオリで2009年版は素材不足となり、2007年以前に撮影したものも併せ、なんと7枚をかき集めることができた。

1995年の初夏にエーゲ海を旅した。最初は未知の領域に対する戸惑いから、有名観光地のミコノス島を訪れた。次も有名なサントリーニ島。三箇所目にクレタ島へ渡ろうとして都合の良い船便が見つからず、思い切って名前を聞いたこともなかったイオス島へ行く。新しい世界が広がった。そこからキクラデスの島々を彷徨う夢のような旅が始まったのだ。

この写真帳でフィルム（ネガ）からデジタル化したのはこの画像だけだ。品質的にはやはり劣る。

1995年4月26日？夕刻

2008年版では雪景色に思ったような素材が見つからず苦心した。そんなことで2月に友人を訪ねて北軽井沢へ行ったとき、浅間山の景観が良さそうなところを車で案内して貰い、最初から「カレンダー素材」と決めて撮影した。　08/02/20 10:56 42 mm　F8 1/800sec ISO100

2006年、湾岸流紀行と称してポルトガル、スペイン、アイルランド、スコットランドの西部を北上した。スコットランドのオーバンからバラ島へ渡るときは、苦手な電話でホテル予約をしなければならず、おまけに島に着いたのは午後八時を過ぎ、かててくわえて小雨までぱらつく。随分心細い思いをしたが、何とか宿へたどり着くことができた。一夜明けてみれば、自室からピンク色に輝くキャッスルベイが鳥瞰できる。昨晩の緊張が嘘のようだった。　06/11/13 8:44: 22 mm　F5.6 1/500sec ISO400

2007年に北イタリアを有名観光地を避けるようにして廻った。それでも見るものの多さに圧倒される。旅も終わりに近づくと、その多さに辟易し、逃げ出すような気分でチンクエ・テッレへ向かった。しかしここもまた世界遺産、趣は異なるものの、見るべきものの多さにおいて遜色はない。三日間滞在し、歩き廻って退屈することがなかった。イタリア恐るべし。　07/11/08 15:25 14 mm F5 1/500sec ISO100

2005年にシチリアを旅し、11番目の訪問地がメッシーナだった。小高い丘に登ると、メッシーナ海峡を隔てて、イタリア本土が指呼の間に見える。直線距離にして10キロほどしかないレッジョディカラブリアとはフェリーや貨物船が頻繁に往来し、ローマからの列車は、乗客を乗せたまま海峡を渡ってくる。

05/11/10 13:30 32 mm F8 1/2000sec ISO400

2008年秋、北軽井沢近在にある紅葉の名所を探してみた。草津白根が見頃らしい。小雨模様に気分をそがれたが、それでも弁当など用意して友人二人と出発。草津温泉を過ぎ、山麓付近では、雨こそ止んだものの霧が上方を隠している。それが山頂近くの弓池を巡っていると、次第に霧が吹き払われ、やがて青空が広がっていった。　08/10/09 12:22 25 mm F5.6 1/320sec ISO100

湾岸流紀行で立ち寄ったフィゲイラ・ダ・フォスは、夏の間こそ海浜リゾート地として賑わう街が、閉店状態のホテルばかり目立ち閑散としている。街を出て小さな灯台のある防波堤の突端へ向かうと、万聖節で休日のためか地元の釣り人達が並んでいた。なんの計算や思惑もないまま数枚写し、帰宅後映像を見て驚いた。こんな風に絵画的になるとは　06/10/31 16:35 45 mm F6.3 1/3200sec ISO400

2010年版　クロアチア紀行

2009年も海外旅行は無理と諦めていた。しかし10月になり事情が急転し、11月23日にクロアチアへ向けて旅立つ。1ヶ月の間に13の街や村を巡ることができた。この旅で素材が比較的豊富に得られたことも有り、カレンダー作りの方針を変更し、一つの旅をテーマとすることにした。

コルチュラ島はアドリア海に浮かぶ島で、本土とは大型バスも積載できるカーフェリーで連絡している。バスがこの日泊まる宿のあるコルチュラタウンに着いたのは6時半を回っていた。バスの床下収納庫からカバンを取り出していると、背後から名前を呼ばれる。前日予約した貸部屋（B&Bの朝食なし）の女将が迎えに来てくれたのだ。

初めての土地でとっぷり暮れていたから正直なところ心細く、この出迎えは有り難かった。徒歩7分ほどで宿に着き、2階の部屋に案内された。広々として快適そうな部屋で、鎧戸を開けると目の前はルカ・コルチュラ湾だ。湾を隔てた丘の上にライトアップされた大聖堂が見えた。

09/12/01 18:44 42 mm　F5.6 1/2sec ISO1600

12月19日にヨーロッパを襲った大寒波は、かなり南に位置するプリトヴィッツェ国立公園にも50センチほどの積雪をもたらした。翌日は打って変わって快晴となり、樹々は新雪でこれ以上は不可能と思われるまで化粧され、折からの陽光に白銀となって煌めいていた。

09/12/20 10:07 14 mm F9 1/200sec ISO100

トロギール運河越しに旧市街が見える三階の部屋に泊まっていた。目を覚ましたものの、「まだ市街見物には早過ぎる。」と、ベッドに横たわったまま本を読んでいた、7時になって、フト視線を窓外に送ると、いつの間にか空がピンク色に染まっている。窓際へ移動して5枚撮影。まさしく、「果報は寝て待て。」であった。

09/12/04 7:00: 14 mm F4 1/40sec ISO200

プーラのローマ遺跡は、円形闘技場として世界6位にランキングされているそうだ。内部の構造物（観客席や通路）は、長年に亘り周辺住民により石材が持ち出されたため見る影もないが、外観は堂々たるものだった。

09/12/10 16:03 50 mm F5 1/160sec ISO100

イストラ半島で最も美しい港町として有名なロヴィニは、リゾート地でもあるが、レジャーボート以上に多くの漁船が繋留されている。海洋レジャーに縁遠いものとしては、この方が何となく親しみが湧く。滞在中は好天気に恵まれ、輝きのある街を撮影できた。 09/12/12 12:17 42 mm F10 1/250sec ISO100

コルチュラの旧市街は特別これと云った見所こそないものの、細い路地が入り組んで雰囲気の良いところだった。街歩きにも倦んで、用事とてないまま渡し船で本土まで往復してみた。洋上からだと、市街はカテドラルの鐘楼を中心に、端正な佇まいを見せてくれる。

09/12/02 15:41 36 mm F5.3 1/125sec ISO100

シベニックで泊まった民宿は、旧市街から徒歩5分ほどの高台にあった。夕方、宿の物干し台に上がると、眼下を一隻のヨットが静かに横切って行く。昼間行われたレガッタの余韻を感じさせるような航行だった。

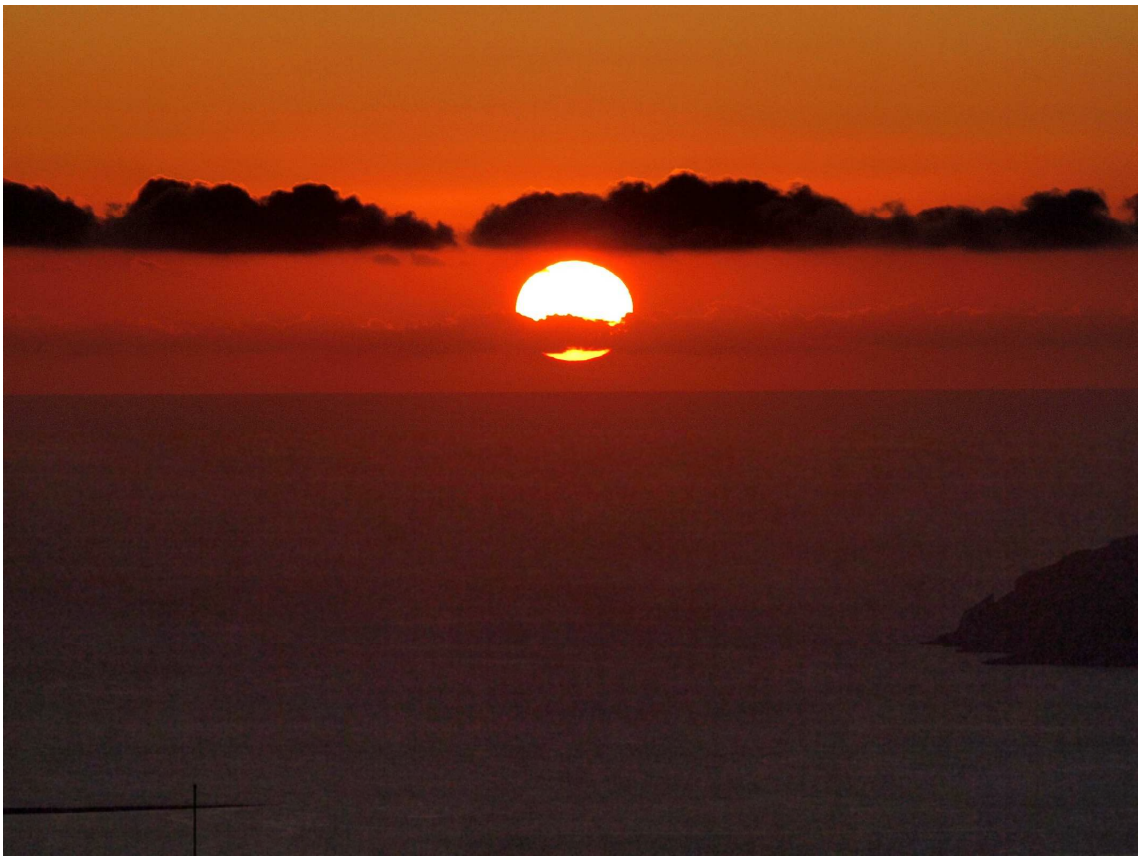
09/12/05 16:30 42 mm F5.6 1/100sec ISO100

2011年版 シチリア紀行

カレンダーの製作方法に関しては、11年版から従来と大きく変わった。それまでは家庭用インクジェットプリンターで印刷し、コームリングで製本する手造りだったのが、外注によるオフセット印刷ホッチキス中綴じ製本になったのだ。

従来方式は手間がかかり、材料費も割高（1部500円から1,000円程度）で、これが製作部数に正比例して大きくなる。前年に約100部作成し、コストはともかくその手間に辟易していた。超厚手の用紙を使用するため、たびたび紙ジャム（紙詰まり）が発生し、プリンターのそばを離れることができないのだ。

外注方式だとイニシャルコスト（製版費用）は大きいが、部数が増えても大差ない。11年版はフルカラー16ページのものを千部発注し、税・送料込みで99,000円だった。手作り品に較べ格調は多少落ちるが、単価が安い故にバラマキを開始した。これまで1送付先1部だったのが、2部、3部に増え、人の出入りが多そうなところへは50部、100部などまとめて送りつける。あるいは近隣の顔見知り程度の付き合いでも、構わずポスティングしたりした。

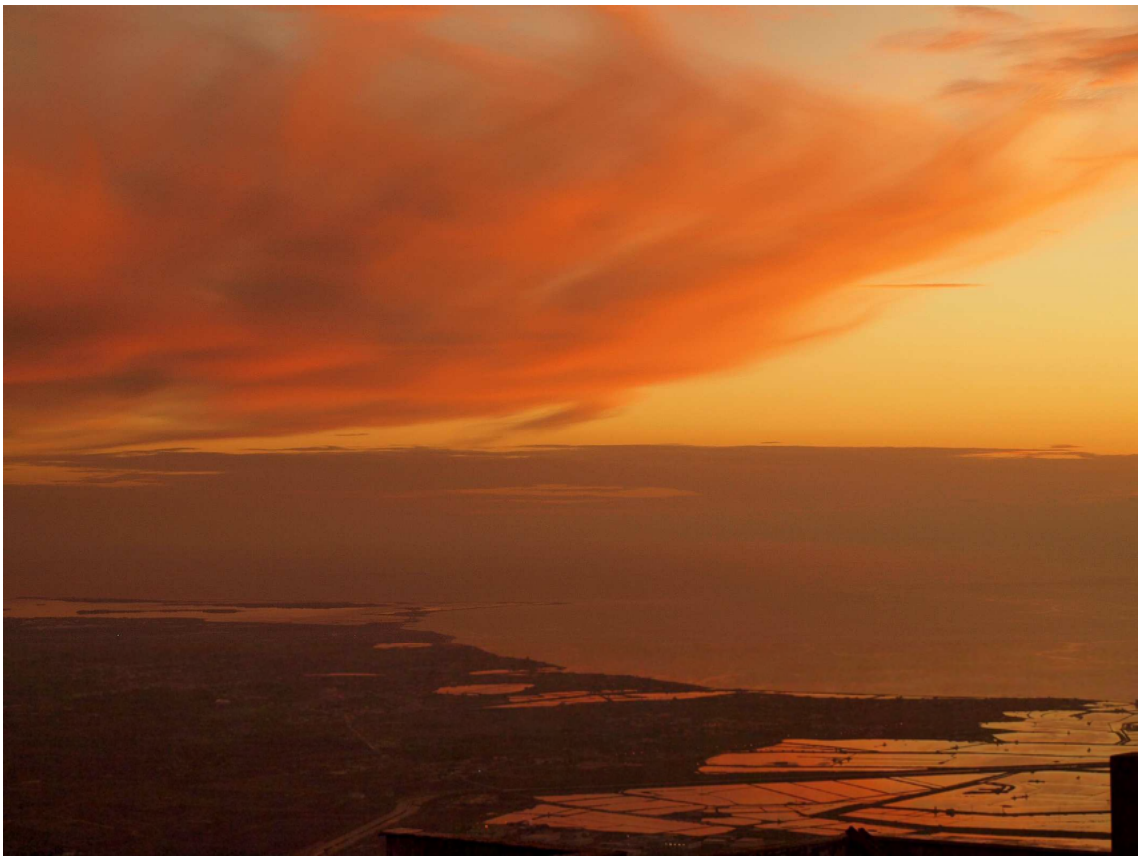


エリチェはトラーパニを見下ろす丘の上にある城壁都市だ。泊まった宿は密集する建物群の中にあり、窓からの眺望は良くない。しかし屋上に設けられたテラス（もの干し場？）に出ると、雄大なパノラマを楽しむことができる。夕方の半時間ほど、刻々と変化する光の壮観な劇を楽しみ28枚撮影した。そのなかの1枚で、太陽にかかった雲が面白い。望遠系ズームを使用し、35mm判換算焦点距離300mmの画像をさらにトリミング。

10/10/29 18:14 150 mm F8 1/400sec ISO200

シラクーサのオルティージャ島で泊まったB＆Bは海沿いに位置していた。朝早く宿全体が寝静まっている時にカメラを持って日昇を撮影に出る。海には数隻の漁船がゆっくり移動を繰り返しながら漁獲作業にいそしんでいた。突然雲間から太陽が出現する。何とか光の道と漁船を並べたく思い、カメラアングルを得るべく走った。　10/11/16 6:58: 34 mm　F11 1/2000sec ISO200

セリヌンテの神殿遺跡はまつられていた神が不明のため、順番にアルファベットで名称が付けられている。G神殿はB．C．241年にカルタゴにより徹底的に破壊されてしまったが、使用された石材は直径3メートル以上の柱などがあり、その巨大さはギリシャ遺跡中で最大級だ。そして遺跡にはなぜか野草の花が似合う。　10/11/03 10:34 42 mm　F8 1/200sec ISO200



トラーパニは塩田で有名だけれど、近くでは高低差がないから良く見えない。しかし山上にあるエリチェからならば見下ろすことができる。日没写真を撮ろうと上がった宿の屋上で撮影した画像は、日没後に雄大な夕焼け雲が広がり、それを映す塩田と一緒にり、なにやら抽象画のようだった。

10/10/29 18:20 42 mm F5.6 1/100sec ISO200

チェファルーで夜間から朝方まで、時に激しく降った雨は10時頃になって止み青空が戻ってくる。大聖堂を背後の岩山から俯瞰してみたかったが、濡れた岩場は滑って危険との理由で、ゲートが封鎖されていた。仕方なく、浜辺を散策しながら大聖堂を遠望する。　10/11/23 10:47 33 mm F5.2 1/2000sec

セリヌンテのG神殿南側50メートルほどのところにあるE神殿。やはり破壊されていたが、1950年代に再建された。訪れたこの日は、深く澄んだ青空に恵まれたばかりか、適度に白い雲と風があり、景観にメリハリを付けながら変化してくれた。

10/11/02 13:22 42 mm F11 1/640sec ISO200

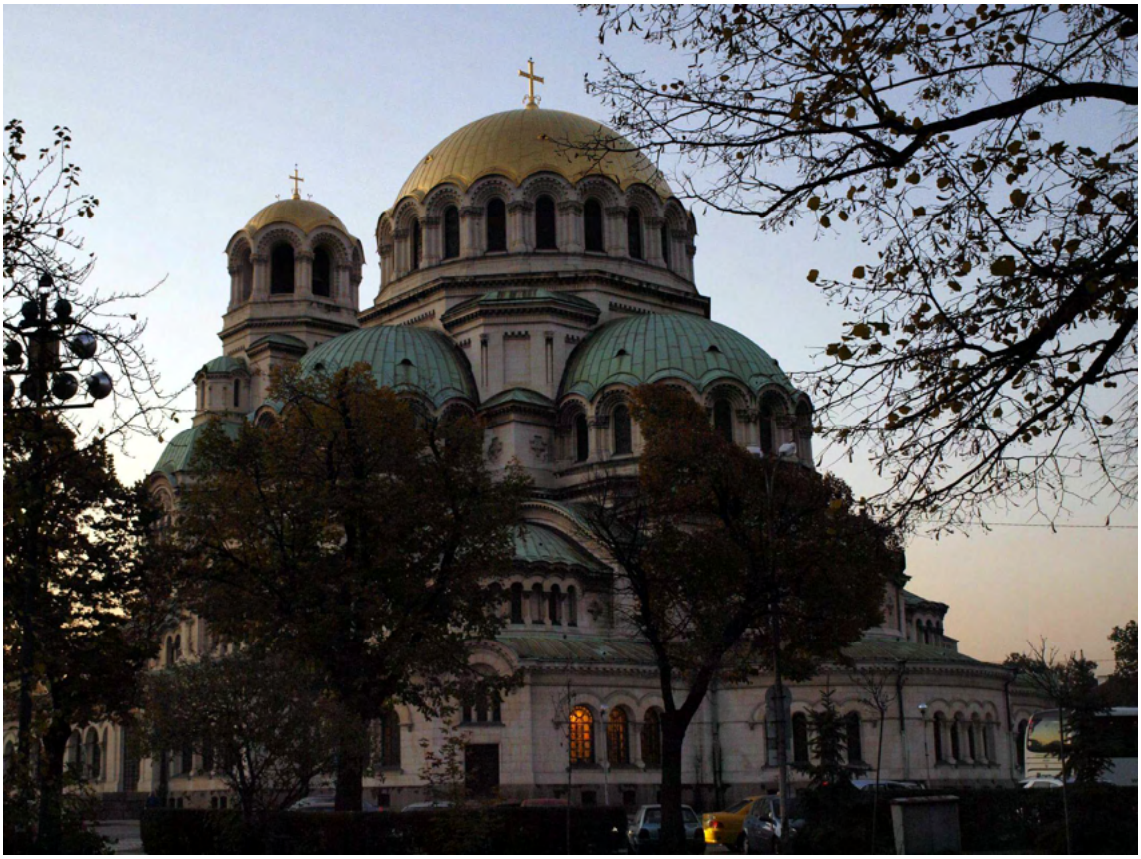
ラグーサのB＆Bはサン・ジョルジョ聖堂の隣と云っても良い立地だった。朝食の場となる屋上テラスは、誰に邪魔されることもなく、明け方に聖堂が次第に照らし出されていく様子を独占して見ることができる。

10/11/10 6:17: 28 mm F5 1/60sec ISO800

2012年版　ブルガリア紀行

東欧諸国（かつての社会主義諸国）は93年末から翌年始めにかけてチェコ、スロバキア、ハンガリーなどを駆け足で旅したことがある。チェコ、スロバキアはともかくハンガリーの印象は悪く、当分訪れたいとは思わなかった。社会主義体制下に付きものといえそうなサービスの悪さが性に合わなかったようだ。

しかしベルリンの壁崩壊に始まる一連の大きな変革後、社会主義体質も大幅に改善され、旅を楽しめるようになったらしい。そうなれば未知のところで有り、西ヨーロッパにはない魅惑的な街や村もそこ此処にありそうだ。手始めに2011年はブルガリアを訪れた。

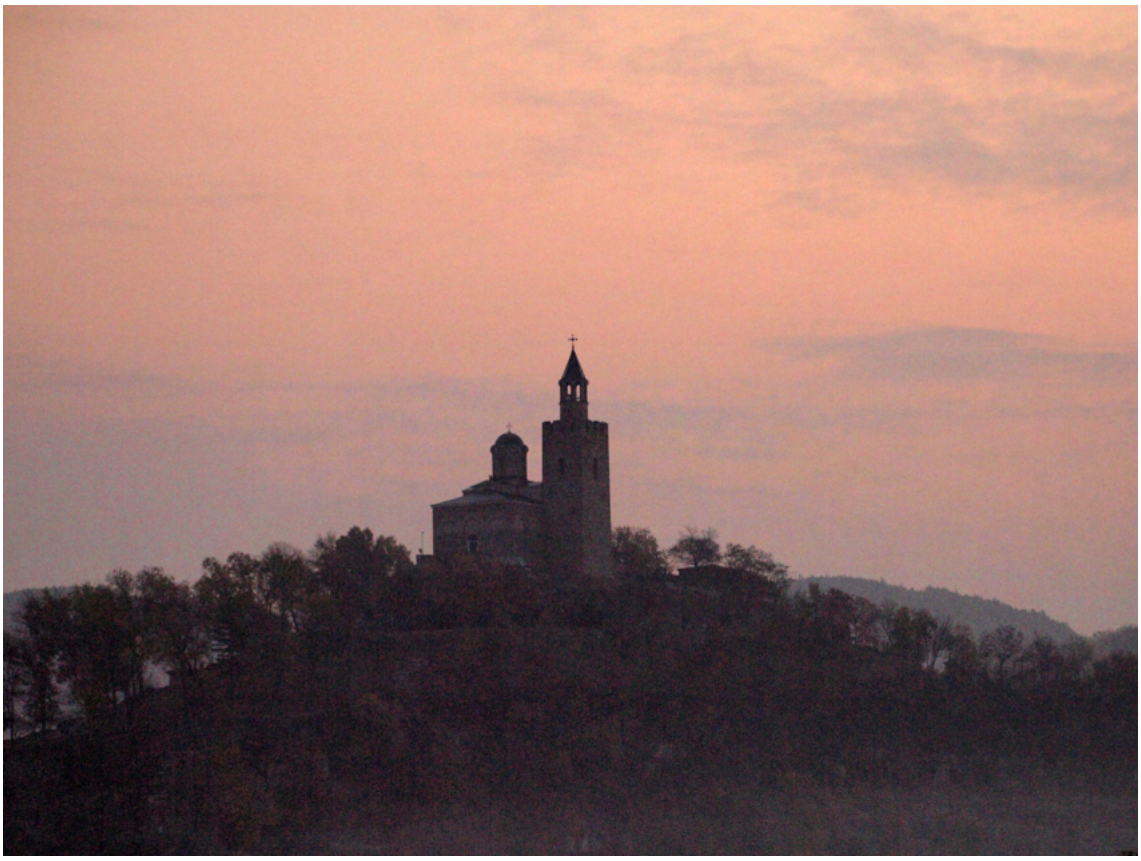


ソフィアにあるアレクサンドル・ネフスキー大聖堂は世界最大級の正教会であり、「世界で一番美しい正教会。」とも云われている。しかしファサードから見ると、なにか間が抜けているようで面白くなかった。裏側に回り込むと周辺の樹木に邪魔されてすっきりと全貌を見ることができない。しかし1階内部の明かりがステンドグラスに彩りを添えているのが気に入った。

11/10/31 17:31 25 mm　F4.7 1/50sec ISO800

シプカ峠は1877年の露土戦争において激戦地となったところだ。ブルガリア人であれば、シプカと聞くと熱い思いに駆られるらしい。しかし古戦場に興味はなく、立ち寄るつもりもなかった。トリャヴナからカザンラクへ移動する路線バスがこの峠を通過し、そんなこととは知らずに車窓から闇雲に撮影した一枚にこの画像があった。 11/11/14 12:29 42 mm F9 1/250sec ISO200

コプリフシティツァはブルガリアで最も『絵のように美しい村』の一つとして有名だ。宿にただ一人の泊り客とし一夜を過ごし、翌朝10時ころから村内を歩いてみた。家々の煙突からは煙が立ち上っているから、住人はいるのだろうが、街路に人影はほとんど見かけない。坂道を登って、村を一望する高台にでた。風がないせいか村全体が薄い煙で覆われている。 11/11/22 10:47 42 mm F11 1/1000sec ISO200



ヴェリコ・タルノヴォの宿は旧市街の東端にあり、泊まった部屋は最上階（3階）で、ツァレヴェツの丘と相対するような位置だった。翌朝になり辺りが次第に明るくなると、麓を朝霧に覆われた丘は、頂上にキリスト昇天教会がすっくと聳え、幻想味を帯びた光景となった。

11/11/10 6:44: 58 mm F4.4 1/25sec ISO800

リラ修道院はブルガリア最大で一番格式の高い修道院だ。創建は10世紀に遡り、13世紀ころには隆盛を極めた。惜しむらくは1833年の大火で、古くからの建物や所蔵品のほとんどが失われてしまったことだ。現在の建造物はそれ以後に再建されたものだが、それでも140年以上の歴史がある。院内の宿坊に二泊し、荘厳な雰囲気を堪能することができた。 11/11/23 15:50 28 mm F5.6 1/100sec ISO200

ブルガリアでリラ修道院に次ぐバチコヴォ修道院は教会内部の撮影禁止は当然として、外部までも禁止されていた。これにはかなり気落ちしたものの、麓の宿は快適で、鄙びた山村的風景の中を漫ろ歩く楽しさが満喫できた。

11/11/20 16:32 31 mm F5.1 1/60sec ISO400

トリャヴナも時代の流れから超越したような、石畳や石屋根の建物が目立つ街だ。石積みの古い橋を渡って袂にあるゾグラフ・インに投宿する。街の中心で時計塔がシンボルの、ディヤド・ニコラ広場まで徒歩1分の立地だが、部屋まで自動車の音が聞こえるようなことは絶えてなかった。

11/11/13 11:04 28 mm F7.1 1/160sec ISO200

2013年版 ハンガリー・ルーマニア紀行

ブルガリアへの旅を終えてみると隣国のハンガリーが気になった。ブダペストは93年末に二泊したものの忘却の彼方だし、他の街は訪れていない。しかし調べてみるとハンガリーだけで一ヶ月の旅程は長すぎるようだ。南東に隣接するルーマニアと合わせて旅することにした。

鎖橋はブダペストのシンボルともいえそうな所だが、日本語訳の「鎖」は誤解を招きそうで「チェーン橋」とでもして置けば良かったと思う。文字通り自転車のチェーンを巨大化したようなもので橋桁を吊り下げている。ちなみにドナウ河はこの辺りで川幅が狭く、たびたび洪水を引き起こしていたらしい。そんなことで河床に設ける橋脚をできるだけ減らし、その結果長くなる径間（橋脚間）の橋桁を耐えさせるために、当時の最新技術を導入しチェーン橋としたらしい。

12/10/29 11:56 28 mm F5.6 1/80sec ISO200

街の起源は13世紀のチュートン騎士団にまで遡る、ルーマニア中央部のブラショフ。列車を利用して着いたのは時分どきだった。宿から徒歩3分ほどのスファトゥルイ広場へ向う。快晴無風で陽射しが暖かい。久しぶりにテラス席での昼食を楽しんだ。　12/11/19 14:23 17 mm F10 1/400sec ISO200

ルーマニアのシビウはザクセン人によって建設された中世都市で、街の景色はドイツを彷彿させるものがあった。中心はピアツァ・マーレ（大広場）で、北側に1588年に建設された時計塔がある。50円弱の入場料を支払い、最上階へ登ってみた。四角い塔の四面に窓があり、それぞれの景観がよいけれど、そのなかでも200メートル西に聳える福音教会鐘楼の立ち姿が美しかった。

12/11/22 14:35 12 mm F8 1/400sec ISO200

ハンガリー南部の街ペーチで、夕刻になって当てもないまま、城壁沿いを散歩した。小さな峠（？）を越えると、突然正面に夕焼けを背景にした大聖堂の尖塔がシルエットになって浮かび上がる。予期していなかった分、この不意打ちは嬉しかった。天候、時期、時刻の三拍子が揃って初めて巡り会え、10分ずれても駄目だったと思えば、なんたる幸運だろう。　12/11/11 16:23 50 mm F6.3 1/100sec ISO200

ペーチの中心はセーチェニ広場で、ひときわ目を惹くのが市庁舎だ。街の規模からすると豪奢すぎるようにも思われたが、19世紀から20世紀初頭にかけて製鉄業や製糸業が起こり、さらに製糖工場とビール醸造業もこれに続いて発展した。ハンガリーの窯業として有名なジョルナイも1868年に陶器工房を開いている。　12/11/11 13:05 25 mm F11 1/400sec ISO200

ルーマニア中央部のシギショアラもドイツ系の中世都市だが、城壁に囲まれた旧市街は狭く、それだけ古都の情感が圧縮されているようだ。生憎の小雨だったがそんな雰囲気を楽しみながら彷徨い歩いた。街の南側には小高い丘があり、その名も「丘の上教会」がある。境内に立つと、眼下に街を一望できた。

12/11/24 11:38 33 mm F5.6 1/1000sec ISO500

ブダペストでひときわ格調高いのがマーチャーシュ教会だ。13世紀半ばにゴシック様式の教会として建てられ、後の1479年に南の塔の建造を含む増築を命じたマーチャーシュ1世の名で広く呼ばれている。昼間この付近は観光客でごった返していたけれど、夜になってドナウ河畔から見上げれば、そんな気配も感じられず丘の上に美しい姿を燦めかせていた。 12/10/31 17:34 50 mm F6.3 1/15sec ISO1600

2014年版　南イタリア紀行

２年続けて東欧を旅したのは良かったけれど、今度は西欧へと思う。久しく訪ねていないドイツ辺りにも魅力を感じながら、ガイドブックなどを散見すると宿代の高さが気になる。払えない額ではないのに、根性が吝嗇になっているのだ。結局そんなことでイタリア、それも南部に照準を定めた。旅先の検討と前後して読んだ、金沢　百枝、小澤　実(著)「イタリア古寺巡礼―シチリア→ナポリ」の影響も大きかった。

王宮付属礼拝堂は過去に見たことがあるものの、パレルモを再訪してこれを見逃す手はあるまいと出かけてみれば、やはり素晴らしい。ちなみに王の私的な礼拝堂かと思っていたが、解説書によると、謁見の場として使用されていたそうだ。政治の道具であるならば、息を飲むほどの豪華さにも納得がいく。

13/10/29 10:55 32 mm　F7.1 1/125sec ISO25600

レッチェは、「プーリアの真珠」あるいは「南のフィレンツェ」とも呼ばれるバロック都市だ。有名なサンタ・クローチェ教会などもあるが、それほど知られていない小さな教会巡りが楽しい。デッラ・マドーレ・ディ・ディオ教会もその一つで、質素な入口から入ったとき、小振りではあるが絢爛たる内陣に目を見張った。　13/11/20 11:49 26 mm　F5.2 1/20sec ISO1600

チェファルーはパレルモから鉄道を利用すると、1時間弱で行くことができる。夏の間はリゾート地として深夜まで喧噪を極めるらしいが、晩秋の今は落ち着いた雰囲気だ。大聖堂のモザイク画が有名だけれど、夕方に人影がまばらな海岸を散歩した方が旅情を楽しむことができた。入国後3日が経過しようやく、「イタリア時間」に体が馴染んできたようだ。　13/10/31 16:56 12 mm　F7.1 1/250sec ISO200

海岸線から山道を14キロほど分け入った山腹に在るスティロのラ・カットリカ聖堂は、ビザンツ中期の聖堂様式で、イタリアでは他に見られないものらしい。予想より随分小さく、「可憐な」とさえ云えそうな佇まいだった。内部に描かれた壁画は撮影禁止だったが、接近して見ることはできる。持参している虫眼鏡で観察すると、絵の具の刷毛目までみることができた。　13/11/04 10:48 36 mm F11 1/400sec ISO200

トラーニ大聖堂は12世紀に建立されたプーリア・ロマネスクの傑作で、瀟洒な姿が美しい。身廊と翼廊の天井（屋根）が高く、すっきりした切妻屋根で構成されているのがこんな印象を抱かせるのだろう。海側から見ると、直線で構成されたその特徴が際だつが、港越しに見る姿も、「船乗りの守護神」と云った感じが捨てがたかった。　13/11/15 11:46 50 mm F11 1/500sec ISO200

ナポリは大聖堂を始め大伽藍や、規模はそれほどでなくても荘重な礼拝堂の並ぶ寺院などがあまたある。そんな中で小さくて地味だけれど見逃せないのがナポリのサン・ジョバンニ洗礼堂だ。5世紀の創建で、現在は外部から直接は入れず、大聖堂の中を抜けてゆく。天蓋のモザイクはかなり剥落している部分もあるが、それでも見応え充分だ。　13/11/26 10:12 36 mm F7.1 1/125sec ISO25600

マテーラのサッシ地区にある石窟群は中世から長いこと小作農民の住宅であったが、20世紀に入り人口過密のため劣悪な環境となり、住民の強制退去なども行われた。しかし穴居住宅群のシステム的ユニークさなどから世界遺産に指定されると、観光を中心として再開発が進む。夜景はそんな歴史などあずかり知らぬようにただ美しい。　13/11/12 17:30 37 mm F5.7 1/40sec ISO25600

2015年 イタリア中部紀行

前年に「古寺巡礼」を携えて旅したのが気に入り、金沢 百枝、小澤 実（著)「イタリア古寺巡礼―フィレンツェ→アッシジ 」を読み、旅先をイタリア中部に定めた。初めて訪れる街（村）ばかりだがローマだけは一度飛行機乗り継ぎのため半日（1泊）だけ滞在したことがある。しかしそれも91年5月だから、街の印象などほとんど記憶になかった。

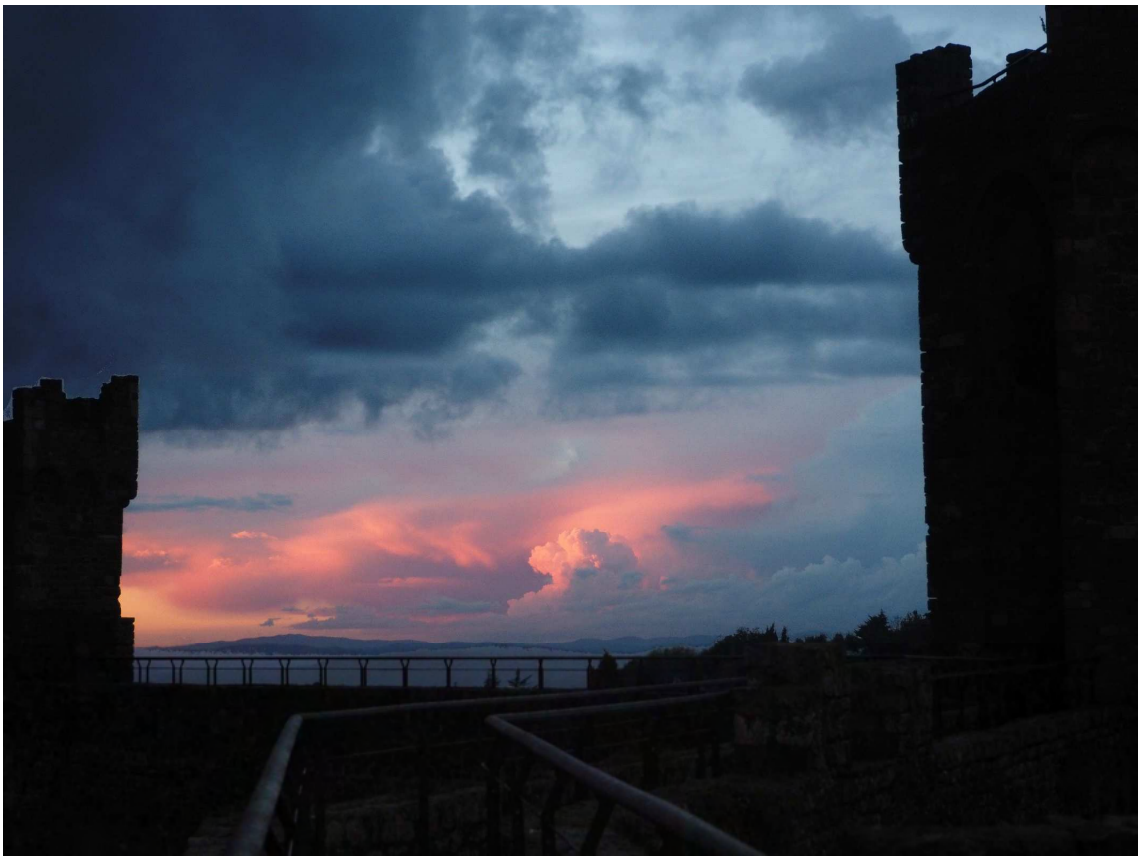
アッシジのサン・フランチェスコ聖堂を訪れる観光客や巡礼は年間数百万人にものぼるという。しかしこの聖堂付近を離れれば、静寂の保たれた街路は歩いて巡るのが好ましい所だ。サン・ルフィーノ大聖堂から気の向くままに坂道を下って行く。石畳の径は途中に階段やアーチがあり、穏やかな紅葉がしっとりした情感を醸し出す。

14/11/28 11:50 50 mm F6.3 1/100sec ISO500

ローマの有名所を訪ねてみたが、バチカン宮殿は広場に蝟集する人の多さに辟易し、続いて向かったスペイン階段やトレビの噴水は工事中で無残な姿だった。

これらの場所に対して過剰な期待はしていなかったものの、いささか悄然とした気分でコルソ通りを歩いていると地味な美術館がある。イタリア屈指の名門ドーリア家が、いまなお居住しつつも一部を公開している、ドーリア・パンフィーリ美術館だった。14/11/05 10:13 21 mm F4.7 1/60sec ISO3200

フィレンツェの中心部は観光客でごった返している。しかしサン・ミニアート・アルモンテ聖堂を目指しアルノ河を渡ると、観光客の姿は忽然と消えた。振り返るとサンタ・クローチェ聖堂のすっきりした鐘楼が川面に映る姿が印象的だった。 14/11/09 9:27: 32 mm F10 1/250sec ISO200



モンタルチーノは1555年にフィレンツェとの抗争に敗れたシエナから650家族が移住し、最後の抵抗をした要塞だった聚落だ。シエナからバスで1時間10分かけて昼頃に辿り着く。翌日の午後は雷雨となった。夕方ようやく雨も小降りになったので散歩に出かける。聚落の南端にある城址に登ると、夕日を受けてピンク色に染まった雷雲が美しい。　14/11/16 16:54 34 mm F5.6 1/80sec ISO800

シエナ大聖堂はゴシック様式としてイタリアを代表する聖堂の一つだ。1196年に建設が開始され、1215年に完成したが、その後も色々改修が行われた。破風のモザイクは19世紀のものだ。堂宇内を一巡後に見上げると、待ち望んでいた青空が垣間見えた。　14/11/14 11:43 30 mm F11 1/400sec ISO200

百塔の街として有名なサン・ジミニャーノだが、撮影した塔の画像に良いものはなかった。塔自体が美しくないし、適当な撮影位置もない。しかし街路は中世からそのままを思わせるような佇まいがそこ此処に見られる。折良く通りかかった通行人を入れて撮影した。14/11/11 15:25 41 mm F5.9 1/40sec ISO3200

聖フランチェスコ聖堂前から南東を見下ろしていると、霧の中から聖堂が浮かび上がった。急いでレンズを望遠系ズームに交換し、3枚撮影する。再び霧の中へ姿を隠した聖堂は、その後半時間待っても見ることが叶わなかった。後ほど調べたところ、聖マリア・デリ・アンジェリ聖堂で、聖フランチェスコが布教を開始した小さな礼拝堂を保護するための鞘堂として建設されたとか。

14/11/28 10:24 138 mm F7.1 1/500sec ISO200

2016年版 バルト三国紀行

16年の秋はバルト三国を1ヶ月間ほど旅し、その間に撮影画像を使用した。バルト三国は三度目の訪問だが、以前は会社勤めの身でそれほど長期間は旅できなかった。今回は一ヶ月なので未訪の旅先を三箇所追加し、ノンビリ巡る。結局移動は総て長距離バス利用となった。

トラカイ城は14世紀後半に築造された城だが、17世紀の戦争で破壊され廃墟となっていた。その後19世紀後半に再建が計画され、1935年頃から工事が始まった。しかし世界大戦などの影響で工事は中断され、竣工したのは1961年だった。現在建物の内部は歴史博物館となっている。

15/11/21 10:40 26 mm F11 1/320sec ISO200

成田を午前11時55分に飛び立ち、タリンの宿へ無事辿り着き午後6時半には食事へ出かける。徒歩5分ほどの所に雰囲気の良さそうな店を見付けた。中世のもてなしをコンセプトに内装やコスチュームなどで雰囲気を醸している。席に着いてしばらくすると古楽器を使ったライブが始まった。たまたま選んだテーブルは演奏者と対面するような位置に在り、特等席といえるうえ撮影にも絶好だった。

15/10/27 20:05 19 mm F4.5 1/60sec ISO25600

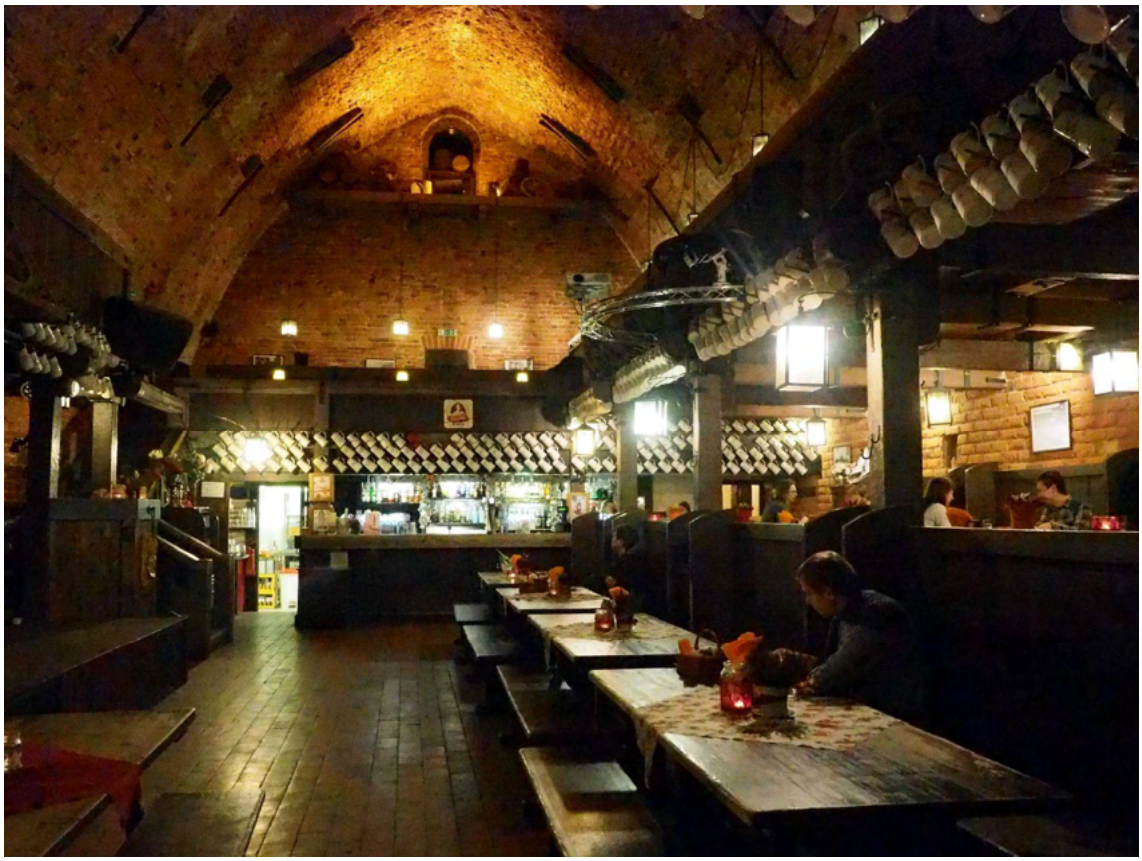
ヴォルは夏期だとハイキングや湖畔のリゾート、冬はウィンタースポーツで賑わうところらしいが、端境期の11月では観光客を見かけることもなかった。

街には見どころといえるような所ほとんどない。街に隣接するタムラ湖畔を訪れても人影はなく、ひたすら寂しい風景だった。

15/11/01 10:25 38 mm F11 1/640sec ISO200

タリンの教会内部はほとんど総て撮影禁止だった。しかし大聖堂は内覧するだけでも料金が必要で、塔へ登るとさらに5€かかる。その替わりということなのか、内部を撮影できるといわれた。

15/10/28 11:44 22 mm F4.9 1/60sec ISO2500



古都タルトゥに着いたのは昼近かった。チェックイン後にフロントでお奨めの食堂を訊き、教えられたパブ、プスィロフ ケルデルは古い石倉を改装して使用していた。それにしても天井の高いところだと感心し、調べてみたら元は城の火薬庫だった。天井の一番高いところは、床から10．2メートルあり、世界一天井の高いパブらしい。

15/11/02 13:27 17 mm F8 1/50sec ISO25600

ヴォルに着きバス停から宿へ向かう途中で見かけた小川が印象に残り、後ほど撮影のため再訪した。
この街に見どころが少ないとは2月のところでも書いた通りだ。撮影したのも僅か60ショットだったのにカレンダーに採用したのは二つある。リガのように見どころが多く400ショット以上撮影してもカレンダーに使用したのが一つだけなのと対照的で面白かった。

15/11/01 11:02 29 mm F9 1/200sec ISO200

快晴に恵まれ、それまでは堂々としていてもくすんで見えた聖ヨハネ教会の鐘楼が輝いている。これを撮影するべくカメラアングルを求めて、聖ヨハネ通りから、ドミニカン通りへと踏み込んだ。するとこの通りにも由緒ありげな教会がある。聖霊教会だった。

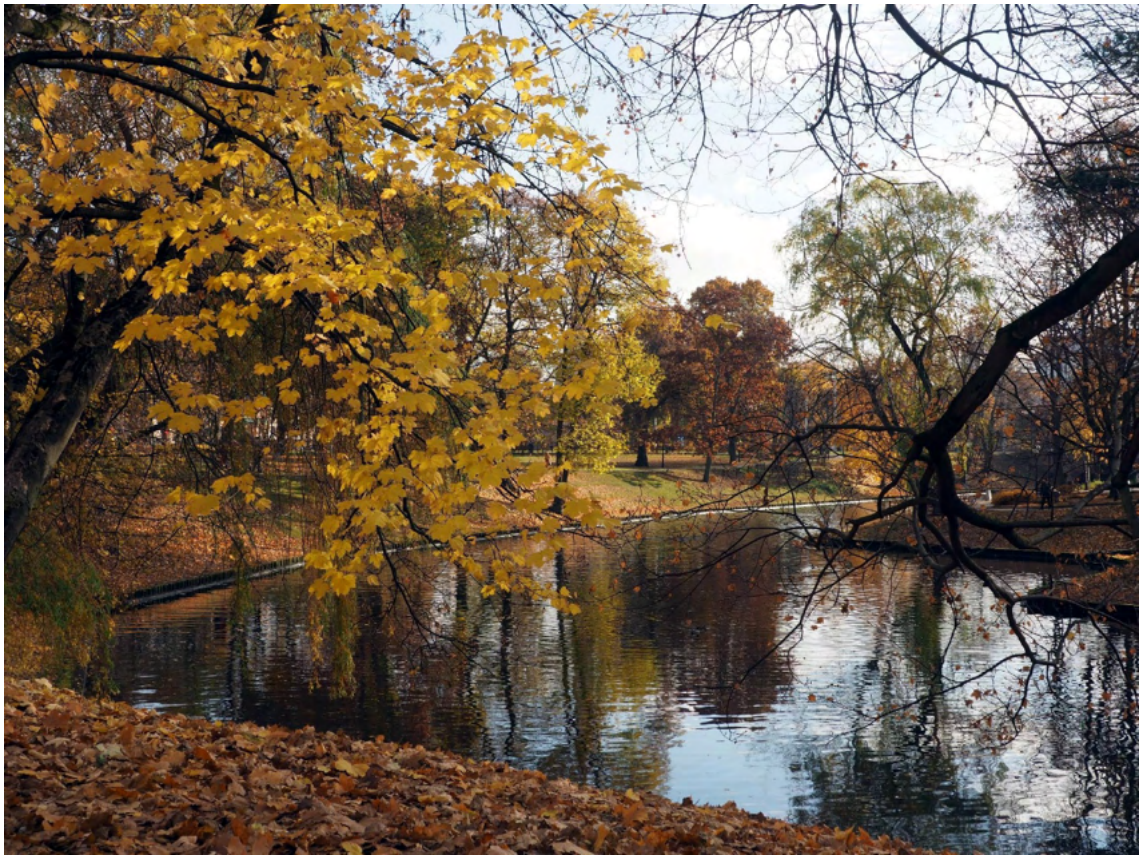
15/11/25 11:33 42 mm F10 1/320sec ISO200

トラカイ城を初めて訪れた時は、雨もよいのどんよりした天気で、撮影結果も冴えないものばかりだった。翌日は朝のうちにヴィリニュスへ移動するつもりだったが快晴が戻ってきた。こうなればみすみすトラカイを去るのは残念だ。予定を変更しトラカイ城を再訪する。期待通り、青空を背景に赤い屋根瓦が映え、湖面に映る城影も鮮やかだった。

15/11/21 10:37 20 mm F8 1/250sec ISO200

ヴィリニュスに着いたのは午後1時だった。宿にチェックインし、しばらく旧市街を散歩する。翌日からは小雨や曇天が続いたが、最終日となる4日目は気持ち良い青空が拡がった。好天に恵まれると今まで見落としていたあれこれに気付く。聖カタリナ教会もこの時その存在に初めて気付いたところだ。

15/11/25 11:35 50 mm F11 1/500sec ISO200



リガの旧市街と新市街を隔てるピルセータス運河に沿った公園は、市民の憩う場所となっている。散歩する人や、水鳥に餌をやる人、乳母車をゆっくり押して歩く姿もよく見かける。小春日和だったので、寛いだ雰囲気は一層強く漂っていた。

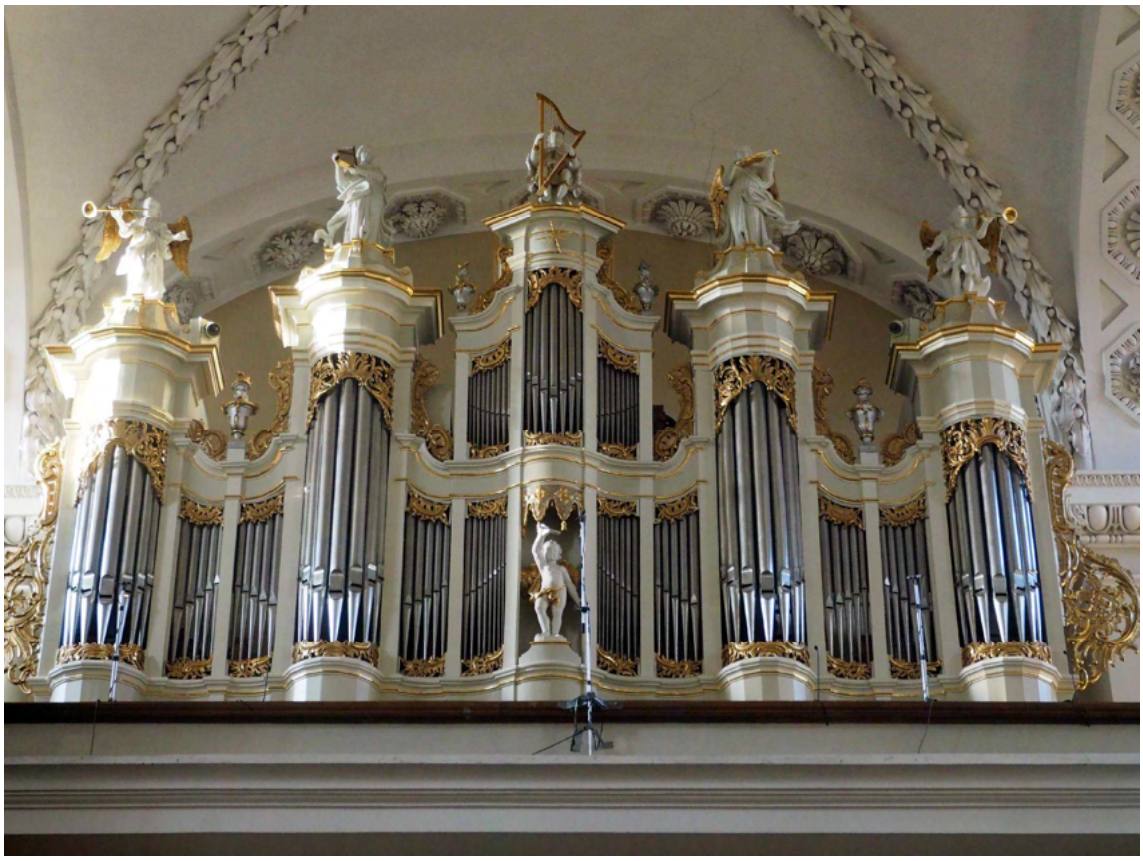
15/11/05 12:27 24 mm F8 1/160sec ISO200

カウナス旧市街の中心部、市庁舎広場にあるタウンホールは高さ53メートルの塔を聳えさせ優美な佇まいを見せている。1階には結婚披露宴会場があり、以前来た時は土曜日だったせいか結婚式ラッシュだった。今日は日曜日なのに静まりかえっているけれど、それは単にまだ午前11時半で早過ぎただけかもしれない。

15/11/15 11:35 21 mm F9 1/250sec ISO200

トラカイ城は13世紀にリトアニア大公ゲディミナスにより築かれ、この辺りが公国の首都として機能した時期もあるらしい。しかし時代の流れと共に地政的重要性が低下し、寂れていった。
現在は再建された城と複雑な地形の湖が見せる美しい景観により、リトアニアでも屈指の観光地となっている。しかし初冬に散策し城周辺から離れると、茫漠とした風景が拡がっていた。

15/11/21 10:22 22 mm F11 1/1250sec ISO200



ヴィリニュスの大聖堂は1251年の創建で歴史は古いものの、現在の建物は18世紀に大改築されたものだ。規模は大きいけれど内外の装飾は素っ気ない。その中で目を惹いたのはオルガンだった。何となくロココ風に感じられるから大改築の結果なのだろう。このような意匠により装われたオルガンは初見なので強く印象に残った。

15/11/25 12:10 40 mm F5.8 1/80sec ISO2500

2017年版 イタリア紀行

17年版のカレンダーは、前年の秋に旅したイタリア北部、中部での画像を使用した。近年イタリアを旅することが多いので、色々な人から、「イタリアがお好きですか？」と訊かれる。正直なところそれほどとは思っていない。しかし度々訪れれば旅のノウハウも蓄積されるので、その分楽に過ごせる。それになんと云っても見どころ、見栄えの良い景観に恵まれ、そして食べ物も性に合うのだ。

ミラノ大聖堂は1386年に建設が始まり、1813年にナポレオン・ボナパルトの命令によりフランス資金を導入して完成された。外部を飾る135の尖塔と3,200体の彫像は見る者を圧倒する。床面積はバチカンのサン・ピエトロ大聖堂に次ぎ世界第二位で、4万人の信徒を収容出来る文字通りの大聖堂だ。

16/11/01 9:52: 15 mm F8 1/320sec ISO200

ヴェローナで観光名所として名高いのはジュリエットの家だが、もちろんそんなものを見に行くことはない。街の郊外にあるロマネスク聖堂の傑作、サン・ゼノ・マッジョーレ聖堂へ向かう。途中アディジェ河に沿った遊歩道を行き、振り返ると14世紀に架けられたカステルヴェッキオ橋が、午後の光を受けて優雅な佇まいを見せていた。

16/11/03 12:47 20 mm F11 1/250sec ISO200

サン・ゼーノ・マッジョーレ聖堂はピアチェンツァのドゥオーモ、モデナのドゥオーモと合わせてイタリア・ロマネスク教会の三大傑作とされているらしい。4世紀頃の司教で街の守護聖人ゼーノを祀り、その墓の上にテオドリック（東ゴート王国の創始者。454－526）が小さな聖堂を建設したらしい。その後再建や地震による被災などを経て、現在見られるのは12世紀に造られたものだ。

16/11/04 12:34 32 mm F11 1/500sec ISO200

パドヴァにも大聖堂はあるが、遙かに規模が大きく集まる信徒も多いのがサンタントニオ聖堂だ。13世紀初頭の聖者アントニウスの遺骸を納めるために建造された。巨大であるのみならず、屋根に八つのキューポラがひしめいているのは異様にも感じられる。

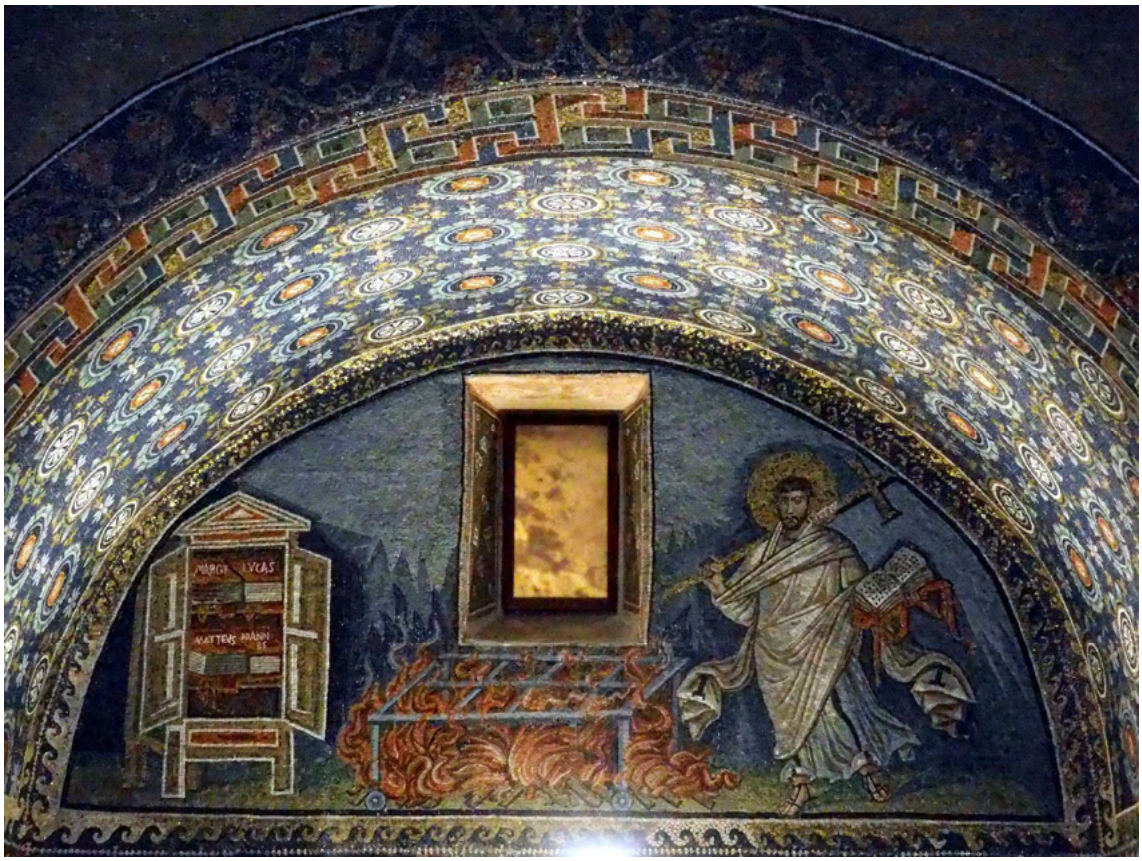
16/11/06 12:36 33 mm F11 1/200sec ISO200

サンタントニオ聖堂への道を辿っているとき、右手に見えた川筋の表面がさざ波のため畔の建物などを美しく映している光景に目を惹かれた。由緒ある建物などないらしいが水面に反射し、遠景になるほど幻想的に見えたのだ。

16/11/07 10:53 50 mm F11 1/125sec ISO200

パドヴァのローマ通りは、その名前を変えながら歴史地区を南北に貫くメインストリートだ。南端に近いローマ通り部分は今でこそ繁華から取り残されているが、少しばかり古ぼけたポルティコ（アーケード）が続くのんびりした雰囲気は、住民が犬の散歩がてら立ち話をしていたり、時間の経過をゆったりしたものにしている。

16/11/07 12:07 50 mm F6.3 1/25sec ISO200



ラヴェンナはビザンチン美術の宝庫で素晴らしいモザイクを堪能できる。本家のコンスタンチノープル（現イスタンブル）は往時こそ素晴らしかっただろうが、オスマン時代に損傷されてしまったので、ビザンチンモザイクに関しラヴェンナが質量共に他を凌駕している。

その中でも魅力的なのはガッラ・プラチディア霊廟で、規模こそ小さいものの逆にそれだからこそ濃縮された玄妙な空間となっている　16/11/09 11:43 50 mm F8 1/40sec ISO25600

フェッラーラのエステ城は重税に苦しむ市民が蜂起したときに備えて構築され、四囲に堀を巡らした武骨な建物だ。しかし現在は美術館として使用され、ほとんどの部屋を公開している。膨大な展示品を鑑賞するのにも倦み、屋上庭園へ出てみた。午前11時の街には活気のある朝を過ぎた物憂さが漂っているように見える。　16/11/12 10:47 48 mm　F11 1/250sec ISO200

ラヴェンナでモザイクの素晴らしい洗礼堂は二つあり、ネオニアーノ洗礼堂は大聖堂に附属するもので規模も大きい。もう一つのアリアーニ洗礼堂はひっそりした佇まいで街の中にある。洗礼堂は中世以前に使用されたもので、当時は受洗後に犯した罪は赦される機会が著しく制限されると信じられていたため、死の直前に受洗することが多かったらしい。そんなことが洗礼堂の需要に結びついたように思われる。　16/11/09 12:49 12 mm　F3.5 1/20sec ISO640

モデナのドゥオーモは三大傑作の一つだが、ファサード前の広場より、南西側がより大きなグランデ広場に面している。そのためこちら側にも玄関が二つ設けられ、外壁の装飾も南西側から後陣にかけて手の込んだものが施されている。

撮影初日は曇り空だったが、二日目は快晴だ。しかし青空に幾ばくかの白雲が浮かんでいればと願うのは贅沢というものだろうか。　16/11/15 11:33 12 mm F10 1/640sec ISO200

ジェノヴァは地中海の覇権をヴェネチアやオスマンと三つどもえで争い、またヨーロッパ金融市場の中心として栄えた街だ。そのため豪壮な宮殿や教会もあまたある。しかし海沿いの辺りは古代の自然発生的集落だったことを感じさせる。裏通りは狭くて不規則に曲がりくねっている。フラーテ・オリヴェリオ通り一応表通りだがやはり下町の雰囲気で、庶民的な商店が軒を並べていた。

16/11/26 10:20 50 mm F6.3 1/20sec ISO320

ジェノヴァの中心とも云えるフェッラーリ広場のすぐ南西にジェズ教会があった。中規模で外観は地味だが、内部は金箔を貼った漆喰や見事な大理石などで豪華絢爛だ。

この教会でもう一つの目玉はルーベンスで、主祭壇の「キリストの割礼」と附属礼拝堂の、「聖イグナティウス・ディ・ロヨラの奇蹟」の二つた。主祭壇の画像を採用した。

16/11/26 10:38 50 mm F9 1/50sec ISO25600

2018年版 イタリア紀行

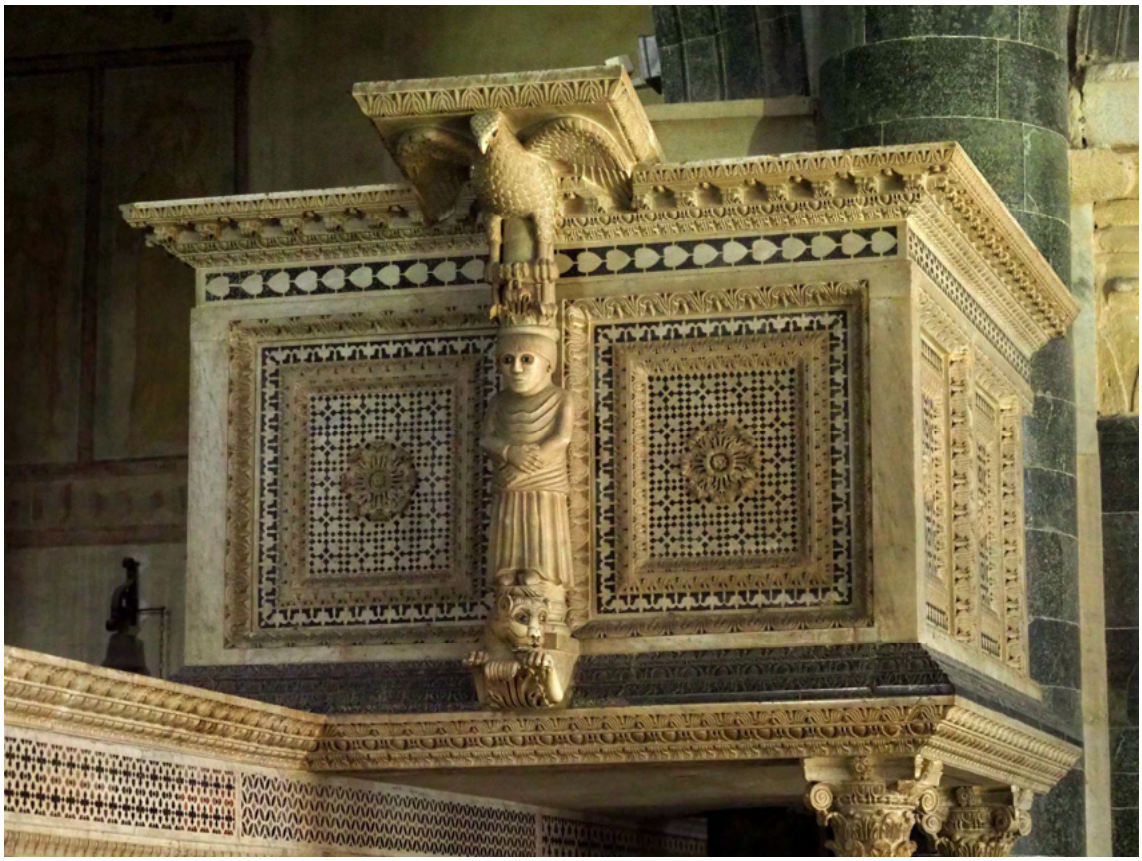
前年に引き続き、イタリアが取材地となった。イタリアが続く理由は既に書いたとおりだが、度々行けば、訪ねたいと思う場所次第に減って行く。しかし不思議なことに、撮影結果に対する満足度は以前より増したように思う。もちろん技量が向上したはずもないから、単なるまぐれ当たりなのだろう。

オルヴィエートは周辺を含め人口2万強の小さな街だ。しかし大聖堂はその規模に似つかわしくないほど堂々たるものがある。1290年に建設が開始され、約3世紀を要して完成した。此処の幅2メートルほどの明かり取り窓にはアラバスター（方解石）が使用され、抽象画を思わせるパターンが印象に残った。

17/11/08 12:15 100 mm F4 1/40sec ISO6400

フィレンツェのサンティッシマ・アンヌンツィアータ教会は花の大聖堂から徒歩10分足らずの所にある。しかし大聖堂の内外が観光客の人波で雑踏しているのに対し、ひっそりと清楚な佇まいが好ましく、しばらくの間この静謐さを楽しんだ。

17/11/02 11:57 54 mm F4 1/60sec ISO6400



ロマネスクのサン ミニアート アル モンテ教会はフィレンツェ市街を一望できる丘の上にある。こぢんまりした聖堂だが、内部をゆっくり見て歩くには適したサイズかもしれない。説教壇のいかにもロマネスクを感じさせる彫像の表情が面白かった。

17/11/03 10:51 50 mm F4 1/25sec ISO6400

オルヴィエートのドゥオモ通り。脇道を垣間見ると、土産物屋が設えた石壁のディスプレーや、店の看板が洒落た風景となっている。

17/11/08 12:25 24 mm F4 1/60sec ISO640

オルヴィエートの街はずれにある聖ステファノ・エ・アナ教会。宿のそばにあったので立ち寄ってみた。特に由緒などなさそうで質素な教会だが、簡素な主祭壇が好ましい。

17/11/08 7:41: 20 mm F4 1/60sec ISO3200

イスキアもナポリ湾に浮かぶ島で、プローチダから1時間の航海で上陸した。見どころの少ないところだけれど、それだけに観光客も少なく、ノンビリした雰囲気が好ましい。日曜日の午前中にアラゴネーゼ城を見物に行く。城はつまらなかったが、途中のヴィットリーア・コロンナ通りなどに漂うのびやかな空気を楽しんだ。

17/11/18 10:59 100 mm F4.5 1/200sec ISO200

宿から石畳の坂道を10分ほど登り詰め、スポレート大聖堂に辿り着く。この日は快晴に恵まれ、青空を背景にした鐘楼がすっきりした姿で聳え立っていた。

17/11/05 10:30 24 mm F10 1/400sec ISO200

プローチダ島はナポリ湾に浮かぶ島で、連絡船を利用して1時間ほどで渡ることができる。島の差し渡しは最大でも4キロ弱で、人口1万ちょっとの鄙びた島だ。此処をを訪れる気になったのは、中村好文の「イタリア美の歓び」によるのだが、これを読んでいると島のそこ此処にカラフルな家々の聚落があるように思っていた。実際には一箇所だけ、漁村マリーナ・コッリチェッラだけだった。

17/11/15 11:36 21 mm F9 1/320sec ISO200

オリヴィエートのドゥオモ広場に面して時計塔がある。屋上のオブジェが面白く、撮影してみたが曇り空が背景だと今ひとつ面白くない。翌日再訪すると打って変わっての青空だ。適当に白雲を配しての背景だとかなり見栄えのするものになっていた。

17/11/08 12:19 100 mm F6.3 1/500sec ISO200

タルクィニアはトラキア人の遺跡（墳墓）で有名な地だが、結局これを見ることなく終わる。しかし旧市街の散策は雰囲気が良く楽しめた。城壁に設けられた門越しに見る周辺地域の農地。

17/11/22 12:28 50 mm F5 1/160sec ISO200

タルクィニアでは大聖堂とそれほどの規模ではなく、さらにそれ以外の教会は質素なものだ。しかしロマネスクのサン・サルバトーレ教会など地味だけれど趣のある建物が散在する。扉は固く閉ざされ、内部拝観はできなかった。

17/11/22 12:13 35 mm F5.6 1/160sec ISO200

オルヴィエート大聖堂を再訪すのに、同じ道筋を行くのも芸がないと、ケーブルカーは止めにして街道筋を辿った。交通量の多い通りで選択を誤ったようだが、イタリアの里山的秋の風景を楽しむことができたとも思う。

17/11/09 11:36 61 mm F5.6 1/250sec ISO200

雨上がりのスポレートのジュゼッペ・ガリバルディ通り、黄昏時は、日曜日のせいかのんびり漫ろ歩く人通りが絶えなかった。

17/11/05 18:00 100 mm F4 1/60sec ISO6400

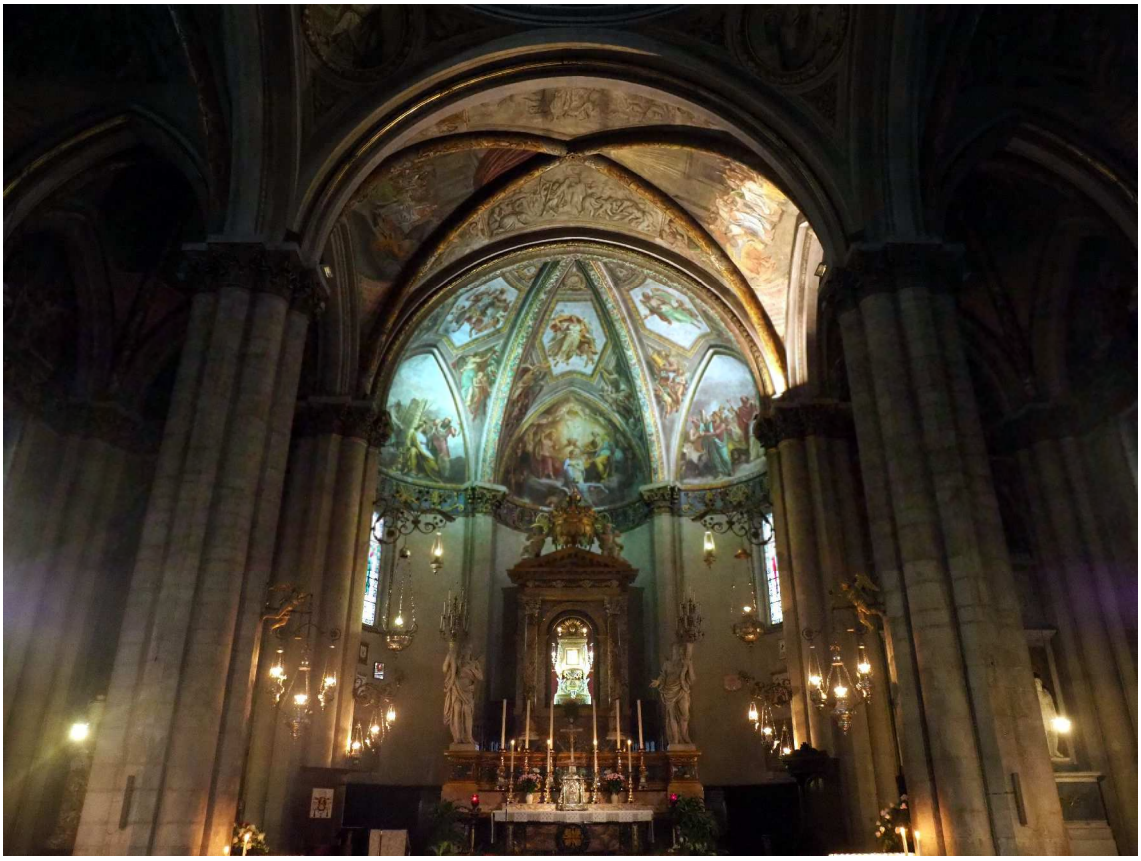
2019年版 イタリア紀行

前年に引き続き、イタリアが取材地となった。海外旅行日数として此処が他を大幅に引き離している。「イタリアがそんなに好きですか？」みたいなこともしばしば訊かれる。確かに見どころは多いし、食事も好みに合う。しかし本音としてはそれまでに好きとは思っていない。ではなぜか。一つにはカレンダー画像の好調が続いているため、転進するのが不安なことだ。それに加えて旅のノウハウが蓄積され、気楽に過ごせることも大きい。

ラヴェンナの最終日は小雨が降り続く。昼飯、昼酒のために外出したが、日曜日のせいか目指した食堂はどこも閉まっている。諦めかけたとき、前方に出現した5階建てビルの屋上から下がる垂れ幕にOSTERIAの文字があった。救われた気分で中に入ると、大食堂は家族連れで日曜の昼らしい陽気な雰囲気が漂う。

18/10/28 13:02 35 mm F8 1/30sec ISO6400

ラヴェンナのネオニアーノ洗礼堂を目指して歩いていると、花屋のオヤジと客が大きな声で長閑に会話していた。何となくイタリアらしく感じ、1枚スナップを撮る。撮影時には気付かなかったが、商品をトラックに積んだ移動花屋だった。　18/10/27 11:00 25 mm F8 1/60sec ISO320



アレッツォの大聖堂内部は地味なところだったが、入口すぐ左手の「慰めの聖母礼拝堂」は光線の加減なのか幻想的な雰囲気が感じられる。少しずつアングルを変えて4枚撮影した。

18/11/12 11:31 13 mm F4 1/25sec ISO6400

イスキア島のアラゴン城は遺跡見物の対象としてはつまらないところだった。しかし岩山に巡らされた通路を辿りながら見る周囲の景観は、変化に富んでいて面白い。

18/11/06 11:02 38 mm F8 1/250sec ISO200

アレッツォの街を歩きなが魅力を感じた街路を撮影する。このポルティコ(アーケード)もその1枚だけれど、後で調べてみたら建築家で建築史家として名高いヴァザーリが設計したロッジア(回廊)宮殿の付属物だった。

18/11/13 11:26 24 mm F5 1/100sec ISO200

オルヴィエトの旧市街は周囲を急峻な崖に囲まれた高台の上にある。麓の宿を出たときは小雨がぱらつく状態だったのに、旧市街中心部に辿り着くまでに、劇的に回復した。雨雲の名残が白雲として漂い、空の青さを際だたせる。 18/10/30 11:44 17 mm F10 1/400sec ISO200

イスキア島アラゴン城からの景観に関しては、4月のところでも触れたが、この1枚はなんと云っても快晴に恵まれたことに尽きる。透明度の高い海がコバルトブルーに輝き見事だった。画面右手に見える岬の向こうを行く船は、本土へ向かうフェリーボートだろう。

18/11/06 10:30 12 mm F10 1/400sec ISO200

ルッカの大聖堂とサン・ミケーレ・イン・フォロ教会は規模的にほぼ同じで、ともにピサ・ルッカ・ロマネスク様式が見事な聖堂だ。しかし大聖堂はファサードの右手に鐘楼があり、これが景観を妨げている。サン・ミケーレ・イン・フォロ教会撮影時の陽光にも助けられ、華麗な姿を見せてくれた。

18/11/14 13:48 17 mm F11 1/500sec ISO200

サレルノのルンゴマーレ（Lungomare：海岸通り）は海岸沿いに幅約30メートルで1キロほど続く遊歩道だ。市民に親しまれている場所で、ジョギングや散歩、犬を連れて歩く人やベンチでの語らいなど、どこを見ても観光客は　目立たない。　18/11/09 11:41 100 mm F4.5 1/250sec ISO200

ルッカの街歩きで最初に訪れたのは時計塔だった。ガイドブックに、「街を一望できる。」と書いてあったので、此処からの景観を元に順次訪れる場所を決めようかと思っていた。しかし勘が悪いせいか、スマートフォンのマップと実物の対照がサッパリ掴めない。しばらく挑戦してみたが諦めた。

18/11/15 11:32 44 mm F8 1/320sec ISO200

ルッカの老舗食堂、ブーカ・ディ・サンタントニオは1782年創業とのことだ。サービスは上品で行き届き、料理も旨いがそれほど高価ではない。目を惹くのは、天井からぶら下げられた数多くの銅鍋だった。装飾目的の購入品だろうけれど、240年近く営業しているのだから、その間に発生した古鍋の蓄積かもしれない。

18/11/15 12:51 12 mm F4 1/50sec ISO6400

2020年版 イタリア紀行

前年に引き続きのイタリアだが、10回目の訪問となると行き先の選択に苦慮することになる。元来観光に興味は薄かったが、近年は何かを見物することはほとんどなくなった。そこそこ雰囲気の良い街で三泊ぐらい過ごせれば良い。しかし総て再訪ということも避けようと、今回初めて訪ねた街は、マチェラータ、テルモリ、コルトーナだった。結論から云えば、コルトーナ以外は外れで、訪問地選びの難しさを味わう。

レッチェのジェズ（イエズス会）教会は外観こそ素っ気ないものだった。しかし内部は各地のジェズ教会に共通する、過剰とも思える装飾で覆われている。

19/11/10 11:35 21 mm F4 1/60sec ISO1250

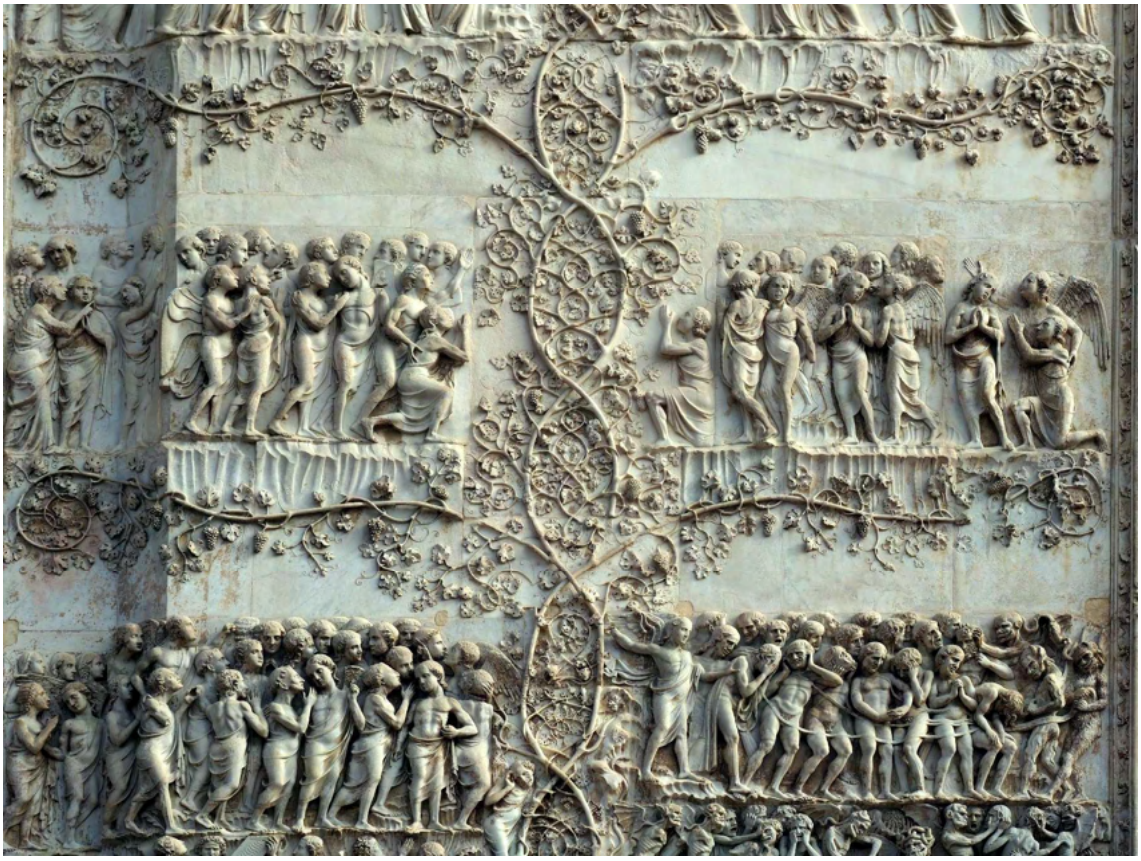
オルヴィエート大聖堂のサン・ブリツィオ礼拝堂。画面には映っていないが、右側の壁面にはシニョレッリの描いたフレスコ画、最後の審判があり、ミケランジェロも影響を受けたなど有名だが、カレンダー向きではなかった。 19/11/14 11:28 38 mm F4 1/80sec ISO2000

テルモリは美しいビーチのあり、夏期にはリゾート客でごった返すようだ。11月では街全体がひっそりしていた。歩いてみて雰囲気があるのは城門をくぐった先にあるBorgo（村）で、中世の家並みが続く。そこを抜けた先で海が見えた。老人二人が歩く姿にストーリーを感じ撮影したが、若干タイミングが遅れたようだ。 19/11/06 10:36 34 mm F9 1/320sec ISO200

トレヴィ(Trevi)の街。アンコーナからオルヴィエートに移動中、トレヴィ駅に近付いて徐行したときふと見上げると丘の頂上に塔のある姿が魅力的だった。慌てて数枚撮影する。

19/11/13 11:09 41 mm F4 1/100sec ISO320

コルトーナはトスカーナの美しい田園風景を見下ろせるところとして有名だ。前日から降り続いた雨も、朝になってようやく止んでくれた。大聖堂広場は北西側が崖になり、自然の展望台になっている。画面右下に見えるのは墓地らしい。 19/11/16 10:10 23 mm F8 1/250sec ISO200



オルヴィエート大聖堂ファサードの右側入口脇柱は繊細な浮彫で飾られている。最後の審判がテーマらしいが、素晴らしい作品という以上は良く判らない。しかしふと考えてしまうのは、こんな浮彫が9割方出来上がったとき、一箇所欠けてしまったらどうするのだろう。やはり接着材など使用するのだろうか。

19/11/14 11:23 54 mm F8 1/400sec ISO200

レッチェはバロック建築の街と云えるほど数多くの素晴らしい教会や大邸宅などがある。その中でも取り分け有名なのがサンタ・クローチェ（聖十字架）教会だ。6年前に観たときは補修工事のために足場が組まれガッカリだったが、今回はそんな邪魔物もなく、青空を背景にすっきりした姿を見せていた。

19/11/11 14:25 29 mm F10 1/400sec ISO200

オルヴィエートのマゴニ通りは2018年のカレンダーで3、4月の画像にも使用した。肉眼で見てもそれほど魅力を感じないのに、画像になると良い雰囲気を醸し出す不思議な通りだ。無人だといささか物足りなく、通行人が現れるのをしばらく待って撮影する。 19/11/14 11:46 61 mm F4 1/125sec ISO800

ルッカでサンミケーレ広場を通りかかると、大道芸人がシャボン玉のパフォーマンスをやるっていた。見事な芸だと思うが、見物人は幼い女の子とその母親だけだった。シャボン玉が面白くて構図なども考えずに数枚撮影した。あとで画像を見ると中々の出来映えだが、私の技術や感性とは関係の無い傑作だ。

19/11/20 12:02 61 mm F5.6 1/250sec ISO200

コルトーナの街は、丘の中腹から頂上にかけて拡がり、平坦な道路はほとんどない。そして坂の多い街は、なぜか魅力的な小路をよく見かけるようだ。その中でも此処は小路沿いの店による看板と照明が効果的だった。 19/11/16 10:50 17 mm F4 1/60sec ISO800

イタリアの紅葉は赤の鮮やかさが日本とはかなり違うようで印象に残った。この日は小雨が降り続き、日照などまるで無いのにそれでも綺麗に輝いていた。ルッカの城壁から城外を見下ろした地点で撮影。

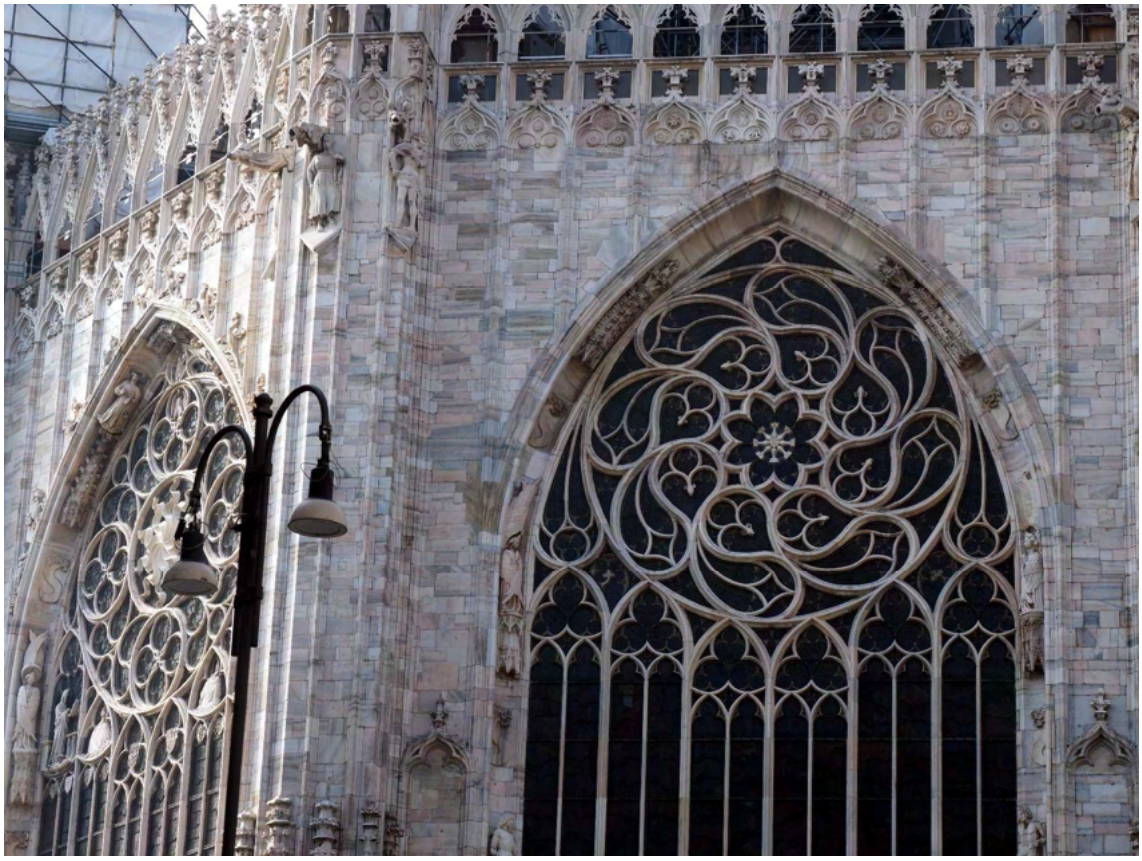
19/11/19 10:37 100 mm F4 1/200sec ISO500

ルッカの街を囲う城壁は、その幅広さ故に「壁」イメージとはかけ離れたものだ。なぜそれほどのものを築造したのか判らないけれど、現在では市民の散歩やジョギングの場所として好適な環境となっている。起伏がほとんどないため、ベビーカーを押す姿なども見かけることが多い。

19/11/20 11:10 100 mm F5.6 1/400sec ISO200

ミラノのドゥオーモは世界最大級のゴシック建築で、建設に500年以上の歳月を要し19世紀に完成した。規模もさることながら、その豪華絢爛さには圧倒的なものがある。しかしその圧倒的さ故に、好きにはなれない建物だ。

19/10/23 11:52 25 mm F9 1/320sec ISO200



ミラノのドゥオーモの体積はフランスのボーヴェ大聖堂に次いで世界で2番目で、広さもバチカンのサン・ピエトロ大聖堂に次いで2番目である。しかし周囲を巡りながら見ていくと、巨大なだけではなく、繊細さも兼ね備えた建物だと感じられる。　19/10/23 11:46 50 mm F7.1 1/250sec ISO200

2022年版 イタリア紀行

コロナ禍により2020年は海外に出られず、過去に利用した画像の再利用でお茶を濁した。21年のなとを過ぎた頃に旅行できそうな目途が付き俄然張り切る。しかし何かと障害は多かった。のイ

渡航先は再びイタリアとし、入国までに何をクリアしなければならないかは、イタリア政府観光局（在日）に電話で問い合わせた。クチン接種済み証明書、海外旅行者保険付保証明書、インターネットでのDPLF（デジタル旅客位置情報フォーム）の登録、入国72時間以内の陰性証明書の四つだった。どれもさほど難しいことではないが煩わしい。ともかく何とか乗り切り、11月８日に無事入国することができた。

サン・ジョヴァンニ・エヴァンジェリスタのような大きな教会には、側廊に面して数多くの礼拝堂が設けられている。ミサなどには主祭壇を使用するが、個人的に祈りを 捧げるとき、このような規模が相応しいのだろう。 21/11/30 10:39 44 mm F4 1/80sec ISO6400

オルヴィエートのマゴニ小路はカレンダーに4回目の登場だ。実際に歩いて見る限りは平凡な小路なのだが、なぜか撮影したくなり、その結果は良い雰囲気が出て いるという不思議なところだ。この日は山上の街全体に 霧が立ちこめていた。

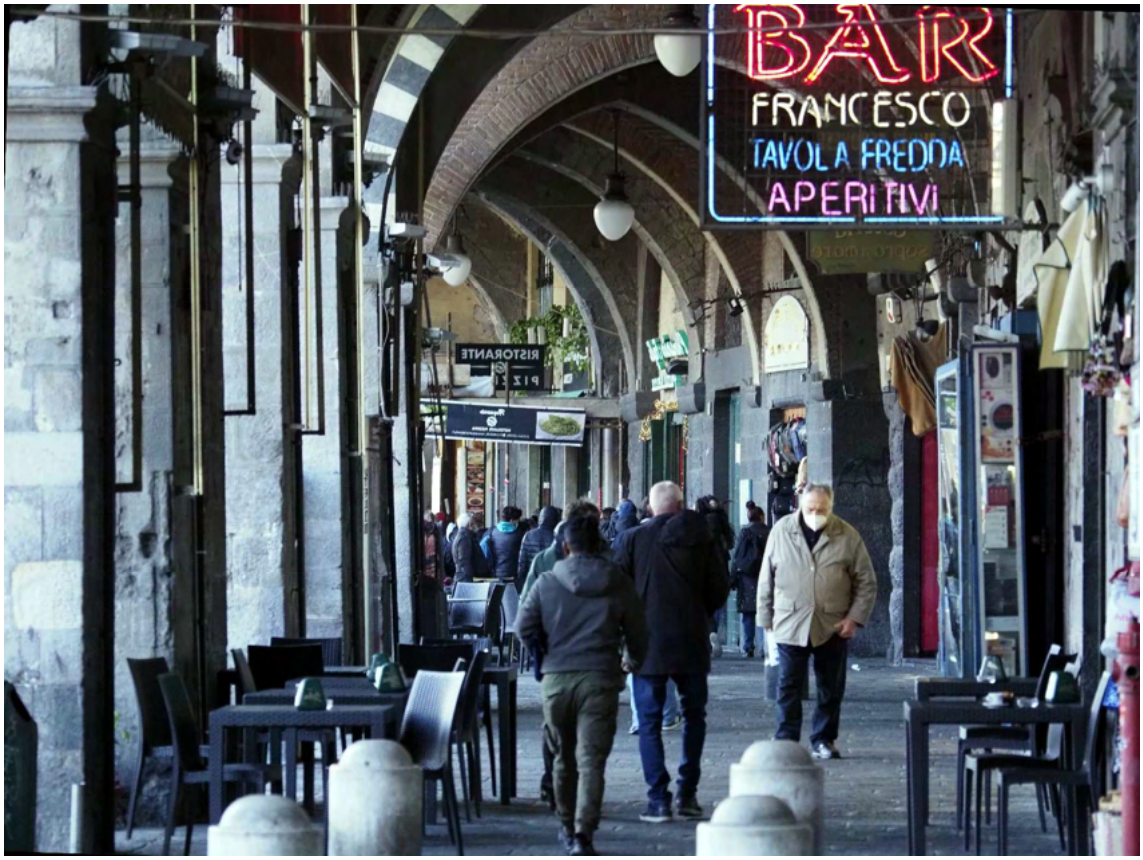
21/11/13 11:23 50 mm F14 1/160sec ISO6400

アレッツォのロッジア(開廊)も以前カレンダーに使用し た。アレッツォで一番気に入っている場所だ。洒落たカフェが並んでいるので、一休みしてラッテマッキャート(フォームドミルクにエスプレッソ・コーヒーを少量加えた もの)を一杯飲むと、何やら優雅な気分になった。

21/11/17 14:49 21 mm F16 1/60sec ISO320

サン・ジョルジョ古城は城と云っても規模の小さな砦み たいなところだ。建物は興味を惹かれるようなものでは ないが、丘の上部に立地しているので屋上からの眺望 は素晴らしい。

21/11/27 11:37 29 mm F9 1/320sec ISO200



ジェノヴァでこの界隈は商店も廉価品を扱うようなところばかりだ。フェッラーリ広場辺りが山の手に相当し、僅かな距離だけれどこちらが下町だと思う。

21/11/24 10:04 86 mm F4 1/200sec ISO2000

サン・ミケーレ・イン・フォロ教会は円柱が林立するルッカ・ピサ・ロマネスク様式だ。この日のように晴天だと、陽光を受けて白亜の殿堂として輝いている。ファサードの頂点に小さく見えるのは、竜を退治する大天使ミカエ ル。　　21/11/19 13:24 16 mm　F16 1/250sec ISO200

ラ・スペツィアでは好天が続いたので、前日古城から見下ろした港を見物に行く。日曜日のせいかのんびり散策する人が多い。風が冷たいものの爽やかな朝だった。写っているのはレジャーボートばかりだが、乗組員10人ぐらいの中型漁船も多数見かけた。

21/11/28 11:23 17 mm　F11 1/500sec ISO200

この建物は古くは中世、ジェノヴァ共和国の統治拠点で、貴族が所有していたものだ。1939年に初代総督の下、ドゥカーレ宮となった。ドゥカーレ宮とは「総督の宮 殿」を意味しているらしい。

21/11/24 10:38 66 mm F8 1/500sec ISO200

険しい丘の中腹にあるコルトーナは、かつて麓側が城壁で防御された街だ。城壁にはトスカーナの平野を見下ろせるビューポイントが随所にあった。中心部に写っているのはサンタ・マリア・デッレ・グラツィエアル・カルシナイオ教会。

21/11/17 8:31: 38 mm F16 1/1000sec ISO6400

大衆食堂オステリアオール・インフェルノは、地元客ばかりで盛況だった。二日目に行ったときには小さな女の子を連れたカップルが来店。愛嬌のある子で店員と話す姿が良い雰囲気だったので数枚スナップする。　21/11/27 12:43 35 mm F4 1/60sec ISO3200

平坦な地に位置するルッカは城壁が途切れることなく街を一周している。壁と云うには違和感のある緩やかな盛り土上に遊歩道が設けられ、散策やジョギング、サイクリングなど市民の憩う場所となっている。　21/11/21 11:48 100 mm F4 1/200sec ISO640

大聖堂前広場では、巨大クリスマスツリーが大型高所作業車を使用しての飾り付け中だった。12月に入ったせいか、大聖堂脇にはクリスマスセール露店が並び、ムードが一気に盛り上がっている。

21/12/03 11:31 28 mm F8 1/250sec ISO200

教会名のサン・ジョヴァンニ・エヴァンジェリスタを翻訳すると聖ヨハネ福音伝道者と云うことらしい。教会に隣接して修道院があり（逆か？）こちらには回廊が三つもあった。修道院ではこれを廻りながら瞑想に耽ることが修行だったのだろう。

21/11/30 10:51 21 mm F4 1/60sec ISO6400

アンフィテアロ広場はローマ時代の円形競技場の構造を残したまま現在に至っている。楕円形の広場には カフェなどが営業し、何となく洒落た雰囲気が漂う。

21/11/21 13:53 28 mm F9 1/320sec ISO200

2006～2022年
カレンダー写真帳

2022年4月30日 初版発行

文/写真　金子 純一
発行者　金子 純一

発行所　徳塔出版

印刷所　製本直送.com

〒215-0001神奈川県川崎市麻生区細山4－6－3

Tel.090-5534-2707

非売品・本書の無断転載・複製を禁じます